**明治十八年日乗**

旦ヨリ今

三縁山上□鴉起育種場中
旭日紅嘉穀穣々水穂
国先□須着於農功　二十
歳旦□農事　九十
三田育種場傍　□
老農楙氏題　百
楙字書□茂□也

〔梅外長允文「甲申十一月。聞斯文会三改選文学会幹。賦示諸君」印刷物〕

一月一日〈十八年乙酉〉　晴　昨朝ヨリ
二日
三日　高島氏婦及嘉兵衛来
四日　亀谷氏来　往徳川公拝年、帰路至勝氏
十一日　濂亭文集、張沆所贈自日下部氏寄至　大学今年為始、易繫辞伝
十一日　張沆先生
久不奉
指教忽聞明帰程期迫惜如之何顧念日来賜眷愛感謝無罄、昨日日下部氏送来先生所賜所見贈濂亭文集謹謹領盛意感謝無先生所賜僕急読数篇高文典冊罄今以一小冊奉呈敢請晒存　帰舟安穩　祷祈云　真所謂以木李　不堪
明十二日帰国ノ由ニ付黎庶昌張沆ニ書簡ヲ郵寄シ送別ノ意ヲ言フ

十二日　大学、繫辞伝
記
一金七円也
四書新増大全上板廿二冊
神田区南神保町七番地　大黒屋宗五郎
右ヲ問合セルコトハ已メニスル
十三日　年賀ノ手札　三百八十八
ハカキ　一百〇七
書簡　五十一
合　五百三十六人ヨリ年賀来ル也
此方ヨリ出スハガキ年賀并手札　百七十三
十四日
十五日　学士会院ニ出席ス
十六日
十七日
十八日　日曜日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
廿三日　太田忠七［三木屋］没
廿四日
廿五日　日曜
廿六日　大学　天一地二

388
107
151
536

廿七日

二十八日

二十九日　大倉ヨリ礼服出来参ル

三十日　孝明天皇祭ニ付　御所江出ル

三十一日　大学

奉送黄吟梅先生帰大清

恨不屢過従、倏忽失数載、猶喜一席話、此地及君在、堪感教誨意、深如東瀛海、使我近製文、剪裁発光彩、未見如君者、光明心磊々、後会渺難期、惆悵百千倍

千葉県上総国望陀郡戸崎村　松崎駒吉

右ヘ同人社規則書ヲ送ル［金十郎心得］

〈二月三日〉〔独和辞書広告切抜〕

二月一日　日曜

二月二日　大学、易　微雪

三日　快晴

跋高谷龍洲千字文後（1）

東坡曰退筆如山未足録、読書万巻始通神、龍洲翁此書飄逸、絶塵而自具法度所謂通神者歟、人或謂似□遍照、余則将曰有気人風度入、或曰

龍洲翁此書飄逸絶塵而森然自具法度、余始不知其善書如此、今歓之□而喫一驚矣、雖然翁之多能□□此後令余幾次回喫驚耶未可知也

○安般守意経［惜□軒久□巻七、百十七ウ］

四日

五日

六日

七日

八日　日曜　松木多賀司ニ被招

九日

十日

十一日　始テ

紀元節ニ付参（ママ）内、是日

上御不例ニ付宴会不被為行候ヘ共御酒被下

大木、山田、佐々木、山県、福岡、神田、宮本、大久保、大鳥、鍋島、槇村、浅野、長岡、林［友幸］、寺島、山尾、鶴田、安場、岩村、中村［弘毅］、籠手田、三浦、谷、曽我、柳［楢悦］、伊東［玄伯］、土塚［文海］、西［成孝］、長与、池田、加藤、伊丹［重賢］、土方［久元］、何［礼之］、長松田中［芳男］ミカケル

〔記事「夢の説」切抜〕

「過日ハ御書被下詩歌被下難有奉感謝候、題詞ハ大橋氏江渡申候、桜花の頃に御東遊□申すにつき

瑳久良花飛ら可む頃に天川花両□く法を又も聞南舞　」

金棒歌

金棒：：何日出、内藤時代堪捧服、一旦被附山阿狐、処々堀□有大穴、我買此地無日輪ノ地ヲ去ル九千五百万英里、日輪ノ円径八十八万二千八万八千里、地球ノ一百三十八万四千倍、行星ノ最モ遠キ子プチュール（チュル）ーン英里二十八万里、コノ行星ガ日輪ヲ一周スル六万〇六百二十四日

土星ノ日ヨリ隔タルコト九万万零六百万里

目可見之星五千

恒星五千万　二丈ノ望遠鏡デ二千万

十一日　〔記事「太陽と地球の距離縮まる」切抜〕
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日　大学
是日哲学会ニ出ル、「我ハ造物主アルコトヲ信ズ」ヲ演説ス
神山誠来ル　箱ノ上ニ書ス
不有戦死者国」家之進歩不可得」也其功奚可忘哉」神山兄茲挙賛成」者之多宜矣
拝啓来ル三月七日土曜慈善会貴婦人相招度件ニ付委員協議会相開候間明後廿三日月曜午後三時必御臨席可被成段為御案内申上候也　二月廿一日
中村正直様　楽善会　訓盲唖院
小石川江戸川町壱番地弐番地御先へ桜樹植付之義於拙者□涜故無之候而出願通御許可相成度也
小石川江戸川町十八番地　中村正直
明治十八年二月二十三日
東京府知事芳川顕正殿
二十一日　大学　親睦会新年会橋本軍医監帰京ノ賀ヲ兼向嶋八百松宴会ニ出席ス
二十二日　〈日曜〉信夫粲非職ニナルノ知ラセアリ、為之懐抱作悪　長谷賢宗来ル
二十三日　〔独和辞書広告〕
二十四日
二十五日　是日鍋島直彬君被招処風気ニ而不出
二十六日
二十七日
二十八日　土曜
春光漸増申候、益〻御起居清穆奉抃賀候、陳者木平譲ト申者、近頃迚文部省報告課ニ勤居候処、今般御淘汰有之不及出仕ト申ス事ニ相成リ申候、本人ハ小生之隣地ニ居リ同地住居致シ候者故その□候を坐視するに忍ひず何レ江之小生もナリトモ課□御採用被下義願度御座候奉職為仕度義御座候、会計を除ク外一通り之文書□—□大抵ハ相勤マリ申候何卒御含置被下何卒御含置被成下、此段宜敷奉願候、
右申上度　早々頓首　中村正直
森有礼様
追而慈善婦人会ヨリ愈〻訓盲唖院江一部分を御寄納ニ可相成義段々御高配ニ与リ奉感荷候也
三月一日　日曜日　得蘇東坡詩集〔田口文蔵君□—□代三円四十銭〕
東坡生景祐三年　正財丙子　建禄　壬癸日亥子丑或
十二月　例食辛丑　冠帯　辰子甲全潤下格
十九日　癸亥　帝旺　福量広闊真富貴相世
時　食神乙卯　長生　□亡　子丑
申報〔明治十六年九月ヨリ同十七年七月迄〕

○和漢文学第四年生ニ属スル分　東京大学教授中村正直

明治十六年九月ヨリ十七年七月迄　コノ学年ニ於テ

コノ学年ニ於テ和漢文学第四年生棚橋一郎ニ教課ヲ授ケ、用フル所ノ書ハ詩経老子列子ナリ、ソノ進歩著シク余ヲシテ満足ナサシメタリ、卒業論文ハ進化論ナリニシテ カクノ如キ文ハ漢洋ヲ兼学ノスル生徒ニ非レバ作ル能ハザルヲ知リ大ニ望ヲ将来ニ属スルニ足ル

○漢書課ニ属スル分

申報

＊コノ時限ノ間第六期生ニ余ガ学年ニ於テ漢書課ヲ受持チ課スル所ノ書ハ易経論語ナリ」其間ニ文章ヲ作ラシム諸生徒端正勤勉ニシテ課ヲ設ケラレシ主十六月九月ヨリ新募集生徒第一期ニ余ガ課スル所ノ書□ハ孟子ナリ、コノ二種ノ生徒何レモ皆勤勉ニシテ怠ラズ故ニ余ガ課スル所ノ書ハ易経論語ナリ、十六月九月ヨリ新募集生徒第一期ニ余ガ課スル所ノ書ハ孟子ナリ、コノ二種ノ生徒何レモ皆勤勉ニシテ怠ラズ、故ニ余ヲシテ問難ノ間ニ益ヲ得ルヲ覚ヘシメタリ右之通ニ

御座候也

明治十八年二月二十八日

東京——　加藤——殿

一月ヨリ入金

一　金弐十円　松永安彦

一　金三円　［埼玉県北埼玉郡持田村］小宮七之助

一　金壱枚　永井タカ

一　金壱円　長谷賢宗

一　金弐円五十銭　大藤国吉

学務局ヨリ社主ニ関スル

規則

第一条　教員ヲ任免シ及ヒ其給料ヲ増減スルコトハ社主ノ允可ヲ得ベシ定ムルノハ経ベシ

第二条　会計簿ハ毎月五日マデニ社主ニ示シソノ鈐印ヲ受クベシ

第三条　新入ノ生徒ハ隔月ゴトニ月ノ終リニ於テ社主ニ謁セシムベシ生徒ノ新ニ入社スル者ハ

第四条　学務局ニテ校務ニ於テ社主ノ意見ヲ聞ント欲スル者ハ毎月始ノ日曜日ニ於スベシ［但シ急速ニ可否ヲ聞ント欲スル者ハ此限ニアラズ］

根来次郎ヨリ　飯田胤政寿蔵碑　五円受取ル

大学別科法学　小久保謙二郎

三月二日　月曜日　明日火曜ヨリ井上円了ハ易ノ課業ヲ止メ卒業論文ノ支度ニ従事ストテコノ前火曜日ニ断リヲ申出ルニ付、為念教務掛ニ申シ置ク

訓盲院集会

三月三日　火曜日　東京大学教授中村正直

第一回中学校師範学校教員免許学力試験委員被仰付候事　文部省

明治十八年三月二日

四日　大学出勤　堤詩集序ヲ作ル（2）

五日　大学出勤

六日　大学出勤　試験委員申合ニ付文部省江出ル　松山麻山来ル

七日　〈土〉大学出勤　長谷賢宗来ル
八日　〈日〉問題ヲ考フ
九日　大学、易繫辞下九卦　論語子張江カヽル
　修文館ニ出デ鈴木唯一ニ面会シ問題ヲ定ム
　得徐文長集于琳琅閣
　此書為杉浦子基所贈、余珍蔵久之不知何時失之耶、今忽得之於書舗為可喜也、
　盖子基之声容与此書而在焉、又有余旧題数行其再帰乎我、若非偶然者
　　神田区今川小路二丁目十三番地　磯部物外
　　深川区清住町四番地　加藤景孝
　来ル廿一日土曜午後四時亀清楼　両国
十日　〈火〉購汪武曽四書大全　価四円五十銭
十一日　〈水〉大学、易論孟三課
　　済民実録ヲ読ム
　慶長五年三成陥桃山城
　安永天明ヨリ酷吏伏見ノ民ヲ困苦セシム
　文珠九助称宗兵衛　丸屋九兵衛
　伏見奉行小堀和泉守・政方　妻芳子半井
　安永七年奉行本多対馬守卆　執政田沼意次薦政方代之　小堀氏侍医水島伴次郎諫政方暴横自殺
　　歳四十六天明元年五月二十八日
　世ノ中ヲ渡リ競ベ（ママ）テ今ソ知レ阿波ノ鳴門ニ波風モナシ
　田沼氏ノ祐筆千葉与四郎　深川養岳寺
　寺社奉行松平伯耆守
　松平周防守　艸済民実録題言（3）

十二日　〈木〉大学、論語第一□　放於利多怨　武蔵元信見訪
十三日　〈金〉大学
十四日　〈土〉大学、易繫辞下伝スム　試験ノコトニ付寄合
十五日　〈日〉吉雄敦、古賀鋭来ル　栗本廉、塩谷敏来ル
十六日　今日ハ第一回中学校師範学校教員免許学力試験ニ付吾カ持シ修身課アルガ為メ上野四ケン寺町理学試験所江出ル
　本年ヨリ古典科本科生ト同シク三月試験トナル
　〔貼紙〕社生　ウラニ寓所アリ　小野直太郎　麦酒弐罎贈ラル
　〔裏〕牛込区津□□八幡四番地　植木屋方下宿
十七日　大学ニ少々出火
十八日　浅草
十九日　運動（セカダンセ）
二十日　〈上又変臨　金〉今日春季祭参　内御断［所労ニ付］
二十一日　大学、第一年生試験　孟子曰人之患在好為人師
　甲州加藤磯部親睦会亀清ニ参ル［円半出シ合ヒ］
　夢入舞官籍筮之得臨上六曰敦臨吉无咎
　　先日団々新聞社ヨリ圭珢新評差上候著者　「總生　寛」〔名刺〕
二十二日　〈日〉朝血ヲ吐ク　池田謙斎ヲタノム
二十三日　〈月〉　八百吉大学ト文部省ニ往キ出勤の事ヲタノム
　是日余深自省謂諸教法未有踰耶穌之上者也従今誠心向于此応帰福音之道耳
　「来ル廿八日土曜慈善会貴婦人来院ニテ午前十時ヨリ十二時迄生徒ノ学業ヲ参観セラルヽニ付会友各位ハ同日正九時迄ニ必ス先着御在席ヲ乞フ、御昼食ハ本院ニ於テ支度スベシ、御家族御知友方モ同日後一時ヨリ光来ヲ待ツ
　　三月廿三日　」

二十四日　来ル三十日迄所労届ヲ出ス
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日　小出雅俊ノコトニ付書ヲ認ム　池田謙斎来診
二十九日　〈日〉八百吉、信夫氏ニ参リ講師ヲ頼ム　川田剛見舞ニ被参
三十日　〈月〉朝嚏シテ血ヲ少シ吐ク　仏道新論を鳥尾君ヨリ被恵
三十一日　〈火〉大学江追テ又来月七日迄不参届ヲ出ス　島田氏江備忘録ヲ遣ヤリ文章点ヲ示ス　教務掛江井上円了ノ点数ヲヤル　洗冤史論ヲ山崎氏ヨリ被恵
欽定天禄琳琅書目

学　　健庵

四月一日
二日　〈東久世殿□□〉　宮本氏ヨリ上野八百善江被招、病ニテ不参
三日　所労ニ付式部寮江下案の通リノモノヲ出ス
今日
神武天皇御例祭ニ付参
内可仕候処所労ニ付不参仕候此段御届在候也
明治十八年四月三日
東京大学教授中村正直　印
式部寮
御中

四日　〈土〉鈴木氏ヨリ論説并答書合弐綴ヲ送リ来ル
弁書稿を返ス　三島氏見訪　深沢氏録郎来リ一泊ス
五日　〈日〉雨
六日　〈月〉雨　雲はれて後の光りと思ふなよもとより空に有明の月
七日　〈火〉

中村殿
診断書　　壱通

診断書
正五位　中村正直
右ハ咯血症ニ罹リ引籠リ療養肝要之段致診断候也
神田区駿河台北甲賀町九番地
池田謙斎　印
明治十八年四月七日

私儀所労ニ付三月二十四日ヨリ引籠居候処未タ全快不仕ニ付猶引籠療養仕度仍而別紙診断書相添此段御届仕候也
明治十八年四月八日　　——○
——殿
池田謙斎之門人診視ニ来ル
八日　〈水〉今日大学江引籠届診断書を差出ス　庶務課江書ヲ添へ引籠期限ハ本月一パイ之見込ノコトヲイヒヤル

九日　〈木〉深沢録郎横浜江参ル

〈宇佐美村　稲葉国五郎　同和吉　同庄左衛門見訪、成田参詣之序ト云フ〉

十日　〈金〉快晴　加藤弘之君以書問病

十一日　〈土〉

十二日　〈日〉神田孝平君見舞ニ被参　赤松則良君同上　是日快晴

十三日　〈月〉中学師範教員試験論説答問二綴を文部省鈴木氏江返ス

十四日

十五日　学士会院ニ断リヲ出ス

十六日　門外桜花開

十七日　開益盛

―倉屋ヨリ所々記スル書ヲ見セニ持来ル

| | |
|---|---|
| 一廿五銭 | 川老金剛一 |
| 一十一銭 | □断金剛一 |
| 一廿八銭 | 金剛般□経二 |
| 一七銭 | 御製　一 |
| 一十銭 | □　一 |
| 一(□□)八銭 | ハ浅解　一 |
| 一廿五銭 | 川老金剛一 |
| 一十一銭 | □断金剛一 |
| 一廿八銭 | 金剛般□経二 |
| 一七銭 | 御製　一 |
| 一十銭 | □　一 |
| 一(□□)八銭 | ハ浅解　一 |
| 一八銭 | 明□　一 |
| 一五銭 | 俗□　一 |
| 一三十五銭 | 瑞応論　三 |
| 一六十五銭 | 刑実記　六 |
| 一三十五銭 | 祢関□進一 |

139
22
161
540
617

〆壱円三十九銭

十八日　〈土〉癸卯　午後晴

〔同人社「漢学専門学校」開校記事切抜、「日清談判」記事〕

十九日　〈日〉甲辰　カクラン君見訪

昨日陳両農君見訪　日本橋区呉服町二十六番地神田銀行支店

＊拝啓　昨愈□高軒過門曷勝感荷謝、僕当倒履歓迎何料前月之末以来患咯血、今雖漸向快安復而気力彫瘁医師尚切禁与客応接酬談話、以是有難偃蹇聞人概□来賓、請幸察情実、僕期至立夏後則或当得邀知己以請教、病中艸々把筆聊謝不敏赦無礼之罪、窃得受教、病中艸々把筆□能親□如此

＊拝啓　昨高軒過門曷勝感荷、僕当倒履歓迎何料前月之末患咯血、今雖漸向快安而気力彫瘁医師切禁与客応接、以是有難偃蹇、幸察情実、期至立夏後則或当得邀知己以請教、病中艸々把筆聊謝不敏如此

○コノ手紙ヲ郵便ニテ差出ス

〔「日清談判結了大使帰朝」記事切抜〕

二十日　深沢翁自横浜回曰已経十一日矣翁至彼如昨日而　○是日雨損桜花之景可惜　○塾生相約往上野賞花不以雨而息此遊也　○旬余日以来開金剛経集数部注疏随意閲之未能有至于有得之地也

二十一日

二十二日　浅倉屋ハ一切経葉本三百六十三冊ヲ見セニヨコス

二十三日　快晴　池田謙斎来診　高島嘉右衛門見訪曰、従今五箇月間当優遊

度日以養心神為事

二十四日　曇　病後始浴　一切経三百六十三冊ノ内ヨリ五十四本ヲ抜出シ取入ル積ニスル　又三十本ヲ加ヘ八十五本ヲ買フ積リニスル

二十五日　〈土〉快晴　於鉄ト共ニ仏参ニ参ル、雑司谷鬼子母神迨参ル

〈見舞礼状〉

秋月　南摩　加藤　三島　島田［二十五日］　信夫　津田　重野　川田［廿六日］　辻［同上］　西村　津田［二十七日］　大久保一翁［三十日］　宮本［三十日］　赤松　神田［三十日］　内藤［五月一日］　岡松［同上］

二十六日　〈日〉快晴　携八百吉至堀之内　高谷龍洲見訪贈

二十七日　〈月〉雨　午後晴

二十八日　深川八幡祠、成田不動尊開帳江参ル［於鉄ト共ニ］　重野安繹君見訪

二十九日　雨　深沢氏来泊

三十日　〈カクラン君ヘ謝状ヲヤル〉

「Many thanks for your kind calling on me for my illness, now I /was/ become quite well I /will/ ought to pay you a visit for thanking. But before that /I write/ I eagerly write you hoping that you may free from care upon me /Plea.../ Mr. Cochran」

五月一日　〈金〉今日病後始而出勤ス　論語孟子輪講

二日　〈土〉易説卦伝

三日　〈日〉

四日　〈月〉午後第二時ヨリ本省江出頭可致招、辻新次ヨリ申来ル

五日　観桜会延遼館ニ而宮内卿ヨリ招状参ル　二時ニ参ル、大風ニ付早ク帰ル

六日　今日ヨリ九日迨所労届ヲ大学江差出ス

七日　宮本氏ヲ訪フ［病気見舞之礼也］　駒込ニ於テ牡丹一株ヲ買フ

八日　晴　独思老冉ニ至而碌々古書堆中無有一為世用者、所学之英書為屠龍技、嗟々何時得為施用之于世乎、又思此志若無有実学与之副則雖有机会亦不能乗、自今当少出常套之外、不倚他人門墻以有期于他日、雖或有于職分不尽者而苟有償之時庶免乎自慙素餐之責矣、如英書尤不可不理、如眼前所値世事無小大無公私尤不可不加意、勿忽此等当務者而可矣　○視履考祥其旋无吉夢以棒逐怪物使嚇退而作唱言曰不能終万物何以終吾生　時暁三時也

九日　〈土〉池田謙斎、神田孝平、高橋家江見舞等の礼ニ参る

○法花経ハ人の心の能書そ外に丸薬ありぬへきやハ

此哥を前島君ニ認め示す

十日　〈日〉斯文会之詩文数人之分ヲ読む

病まなくハ万に踰えて健げなる身の貴とさをいかて知らめや

十一日　〈月〉信夫粲始于同人社講詩経荘子　大学出勤易説卦　文部省小集大学ニ在ル処断リヲ出ス

十二日　〈火〉宋十五家詩選、武将感状記正続ヲ買フ

十三日　是日ヨリ十六日迨風邪ニ付大学江不参届ヲ出ス

十四日　佐藤麟角来曰、十二日産一子曰弥六　高島氏見訪

十五日

十六日　〈土〉得四家雋

十七日　〈日〉雨　木平氏謀出仕

＊乍接　朶雲承　閣下将暫帰省庭慈闈□容僕陪別筵于偕楽園感荷無尽謝無堪不奈連月就枕既痊後両三日来又□□娶寒疾、以此不欲□□明日不能□会往会懐恨曷已唯連月□□□有□□□□僕如之何□□□□□□□待閣下再遊之期而已、枕上把筆為之　勿々奉復

姚文棟先生閣下

＊乍接　朶雲承　閣下将暫帰省庭闈容僕陪別筵于偕楽園感荷無尽不奈連月就枕
既痊後両三日来又娶寒疾以此明日不能往会懐悵曷已唯待閣下再遊之期而已、
枕上把筆為之勿々奉復

乗馬飼養義務

者乗馬飼養令ニ拠ク飼養ノ馬匹等報告ノ件ニ関シ陸軍卿官房長ヨリ照会ノ趣モ有之該報告上入用ニ付各自飼養之馬匹本年六月一日ノ現況ニ拠リ左ノ箇条ヲ来ル六月三日迄ニ本学ヘ可届出候尤モ右六月三日届出之后ト雖馬匹ノ斃死交換及ヒ飼養ノ馬ヲ廃シテ飼養料上納ニ代ヘ又ハ飼養料上納セシ者ノ馬匹ヲ飼養ニ変シタル時ハ其事由并ニ馬匹ノ毛色寸尺トモ其時々可届出此旨相達候事

明治十八年五月廿九日　　東京大学物理加藤祐之

一乗馬飼養令ニ拠リ飼養馬匹ノ数
　但シ乗馬又ハ馬車馬等其使用ノ種属共
一飼養料上納ノ馬数
一馬匹ノ毛色
一仝上ノ寸尺

十八日　〈月〉大学江今日不参届出ス
如々不動目白不動の山つゞき臥龍か崗に時を俟ら舞

廿日　大学

廿一日　大学

廿二日　大学　午後一時ヨリ三時迄ノ間ニカクラン君イエンキンス君来ツ積リ（ママ）
〈廿三日午後第一時フロツクコート〉

廿三日　〈土〉韓城講和之祝宴　延遼館江午後第一時揃

戊寅　昨夜肩ハリテ大ニ苦シム　廿五日迄三日ノ間不参届ヲ出ス

廿四日　〈日〉高橋甲君ニタノミ灸ヲオロス

廿五日　〈本日〉月曜日　東京大学植物園に於て本学外国教師へ午餐饗応致候付而午後一時迄ニ参集可有之候也

明治十八年五月十六日　　東京大学
島田
惣理　南摩　田尻

〈時事新報五月二十三日〉〔「日本の十傑」記事切抜〕

May 19
Mr. Cochran
My dear Sir

/After my recovery from bad sick, I was again attacked by cold, now I become/

I read your letter & do not remember who is Jenkins. I remember Edkins whose Chinese characters were 艾約瑟.

Perhapes he may be Jenkins instead of Edkinks.

But I never mind who he is. Whomever come of you /1/ or with you I am very much pleased to see him. The appointed day will be 22nd of this month (Friday) & the hours /about 1/ between 1 & 3 afternoon of the day.

〔溝口桂巌「元弘碑石歌」記事切抜〕

二十六日　〈火〉

二十七日　〈水〉大学出勤

二十八日　〈木〉大学出勤　帰路ニ三島氏、南摩氏ニ立寄リ、病気見舞ノ挨拶ヲ述ベ置ク

二十九日　〈金〉大学出勤　中学校師範免許学力試験尽力ニ付聊為慰労文部卿ヨリ晩餐ヲ御呉四軒寺町新築所ヘ被招

三十日〈土〉大学断　深川身延日蓮師開帳参詣ス

三十一日　〈日〉

六月一日　〈新暦五十三歳二ヶ月　月〉　大学、易序卦伝下

午後七時半ヨリ清国公使館ニ赴ク徐承祖ノ招ナリ、会者長岡、柴原、田辺、重野、巌谷、石川［波斎］、朝比奈［閑水］、長崎、牧野、福地、前田円、鄭［永寧］、渡辺［洪基］、藤野、宮嶋

〔下欄外〕　［宮］

石　長
福　巌
重　柴
長　徐
田　渡
牧　鄭
藤　中
朝　前

［友］

池田章政等銀行諸長ヨリ上野競馬会社ニ於て伊東、井上、西郷三参議帰朝之祝宴被招候処是ハ断リヲ出ス

明六社手島精一外国ヨリ帰朝ニ付招キ旁集会申来リ此又断ハル

二日

三日　大学、論語輪講　是日卒業

四日　今明日所労断ヲ出ス

五日　〈辛卯〉竹ヨリ馬二疋見セニヨコス

六日　〈壬辰〉易雑卦、是日周易卒業　西村氏四男入門　清国公使館江返礼トシテ参ル

○小幡菅茂ナル者山寺常山翁ノ碑ノ写真弐枚被贈

七日　〈癸巳　日〉坂部只一（明治字典）を持参し被贈

西村茂樹氏江病気見舞の返礼として参る

良将達徳鈔二三ノ帙、保田氏ヨリ届ケ来ル

八日　〈甲午　月〉関氏ノ招ニテ上野八百善ニ参ル、重野、小中村、小杉、榲邨、松野中行、李樹廷在坐（4）

四軒寺町文部新築室ニテ法人楽師ヲ招テ音楽会アリ、八時ニ及ヒコヽニ趣ムク、於高亦往焉、神田、箕作等在座　越後人小林百哺（年八十二）来見

九日　〈乙未　火〉平井参ヨリ池村碑文草稿参ル、改正シテ彼ニ付シ清書出来タルヲ受取ル

十日　〈丙申　水〉大学、孟子離婁下終　今日ヨリ休業ニスル

来ル十八日十九日論語孟子試業ノ約ヲスル

竹ヨリ馬二疋見セニヨコス　鳥尾君、飯塚納見過

十一日　〈丁酉　金〉朝重野君江参ル　馬二疋見セニヨコス　竹ニ□—□（貼より不明）

徐公使江参ル　『大清公使署日文繙訳官廬永銘』［名刺］

〈十八日十九日漢書第一年生　廿一日哲学四年試験〉

十二日　〈戊戌　金〉滝村小太郎来

今日馬買入ル証書ヲ受取ル、代価四十二円五十銭也

十三日　〈己亥　土〉馬場ヲ作ル

十四日　〈庚子　日〉［書］長君碑（5）ヲ清書ス

十五日　〈辛丑　月〉学士会院ニ出席ス　深沢氏伊豆江帰ル

十六日　〈壬寅　火〉鈴木唯一被参　松山麻山等五十点以上及第ニ定マル

十七日　〈癸卯　水〉亜細亜協会に行く　議員会ニ可参処断リヲ出ス

十八日　〈甲辰　木〉大学、漢書課第一年生孟子試験　乗馬ニテ馬預ケ処迠参ル

十九日　〈乙巳　金〉同上論語試験　馬埒にて乗馬す

「京橋区元数寄屋町四丁目四番地　津田東方ニテ　大館尚氏」〔名刺〕
「新潟県越後国長岡郡槙山邨平民農」『稲川熹六郎』三十二年七ヶ月〔名刺〕
本銀町三丁目白木屋金蔵方
日本橋区本銀町三丁目樋口屋方ニテ　稲川熹六郎〔名刺〕

〈六月〉

二十日　〈土丙　午〉厩ノ建前ヲスル　馬車ヲ見ニ参ル　内幸町江参リ市口庄之助方ニ寄ル
二十一日　〈日　丁未〉　揮毫　艸梅外詩鈔（ママ）序（7）
二十二日　〈戊申〉井上円了易試験　重野君　馬ヲ竹連レ来ル
大和人『赤井梶蔵』□井碑銘之義ニ付〔名刺〕
二十三日　〈己酉〉大学、第三年生試験論語
二十四日　〈水　庚戌〉大学、易試験　新井楊崟被参、象山ノ書を被贈
二十五日　〈木　辛亥〉馬車ヲ誂ラヘル

題象山先生画山水（6）

象山信中産、学識天下傑、餘事嗜翰墨、胸懐寄超逸、有時興淋漓、山水入入□画筆、遠近分淡濃、気韻自清絶、彷彿見典型、可敬不可狎

二十六日　〈壬子〉
二十七日　〈土　癸丑〉余所志得行乎謹筮之、大有九三公用亨于天子小弗克禁酒会〔大学講義室江〕参ル　デニングノ招ニ夜七時半ニ参ル
二十八日　〈日　甲寅〉夙起揮毫　秋月胤永ヲ訪フ曰ッ禁酒（スト）　赤松氏江手札ヲ出ス、病気見舞ヲ謝ス　十河定保江五円ヲ借ス　是日厩出来上リ馬引キ入レル
二十九日　岡本監輔来ル　雨　朝乗馬　雨
三十日　雨

七月

一日　明六社江断ヲ出ス　読法華通義　終日雨
是夜水出て池水溢る、江戸川の水増て往来の道に上る　暁に至りて水退く梅樹を倒せるものあり
猿楽町廿四番地大□方　福井彦次郎〔名刺〕

〈七月三日午後第一時ヨリ大学教員詰所江参ルコト〉

二日　天開霽　斎藤篤信、村田峯次郎来
法華玄黄筆記、礼記集説、浅倉屋ヨリ見セニヨコス
三日　朝乗馬　午後一時ヨリ大学江出ル、点数調ニ付相談

〔「動物電気術」記事切抜〕
□（貼紙により不明）—□弍丁目三十番地　林方にて　沓内徳二〔名刺〕
下総国香取郡窪野谷村　宇佐美万二郎
四日　〈土〉霽　朝乗馬　湯目鎮目来ル　三島中洲ノ娘ノ病ヲ訪フ
五日　〈日〉朝Sendagaya ニ参リ30 Riyô wo hennnô su.
揮毫ス　那須真弓来ル　県令赤司君　明治十八年六月廿七日宮内省ヨリ各地方官ヲ延遼館へ被為召午餐を賜フ　画工数者呼て揮毫せしめ福島ハ産馬の地たるを以て馬の画を賜る

〈七日王梟園申刻八丁堀北島町松埜料理店〉

六日　小雨　馬詩七古二篇（8）ヲ作ル

題子昂画馬（9）

古絹黯黮欲無色。中有一馬顯見傑特。原野郊坰草連天広大。偃仰動止皆自得。適信其性情天□而已矣。未知何物是覇靮。画之者誰趙公子。精神態度真意態妙絶技。宝物如此不易獲。人間珠玉何足比。寧足珍

〈八日訓盲唖院試験〉

七日　松埜屋ニ参ル　王李園游歴送行
八日　〈七月〉乗馬ス
　市谷八幡内『兵大尉松島克己』刺〉
　磯林大尉ノ銅像ニ付被参　大学江参ル、井上円了卒業証書江調印ス　訓盲
　唖院試験ニ臨ム
九日　乗馬ス　三島氏江□参ル
十日　雨
　題幼稚園初歩（10）　福田仙蔵ヨリ頼マレ
　幼園勿謂是么麼、他日良材這裡多、枝幹小時須直養、大来拳曲可如何
十一日　〈土〉
十二日　〈日〉高嶋氏来　揮毫
十三日　〈月〉高津、亀谷、西村三氏被参　大庭永成被参　育英会ヨリ被招ニ
　付参ル　亀谷氏ヨリト筮正宗六本ヲ被恵　〇育英会ニ会ス
　〈朝谷干城宅江参ル〉
十四日　〈火〉華厳経疏演義鈔六十五本ヲ買フ　為高津氏書自叙千字文
十五日　〈水〉亀谷氏江参ル　空蓮師ノ六字名号ヲ拝ス　午後亜細亜協会江参
　ル　長岡、井田譲、徐承祖、廬永銘、ーーー、山吉某、吾妻、草間、北沢、
　松平信正、谷干城［来会ス］
十六日　〈七月　木〉乗馬ス　晴　沼沢七郎来ル　赤司銀次郎碑文ニ付来ル
十七日　〈金〉神祖上野廟ニ至リ拝シ二十銭ヲ納ム　坂ヲ下リ板倉旧老侯ニ逢
　フ　晩遠雷　〇市川孫三郎始来宿　斎藤時泰ノ紹介
十八日　〈十九日　土〉晴　晩曇ル
十九日　〈日〉揮毫
二十日　〈月〉音楽所卒業式ニ会ス　是日晴
二十一日　〈火〉
二十二日　〈水〉徳川様、勝氏江暑中伺ニ参ル
二十三日　〈木〉
三十四日　〈金〉
二十五日　〈土〉
二十六日　〈日〉快晴
　聖上御□輦ヲ御見送リニ停車場江出ル　〇午後二時大隈君早稲田学校得業授
　与式江参ル、祝詞ヲ読ム
二十七日　〈月〉高橋博親君、於鉄ト共ニ三河屋料理ヲ昼食ニス　浅艸公園を
　観る　馬鞍出来参ル
二十八日　〈七月〉
二十九日　乗馬　是夜以胸蓄酢液不飲酒
三十日　暁起乗馬出門是為乗此新買馬出門第一回　先是乗馬皆于後園馬埒、
　為之今日出門而右、過至造兵司、川勝前、至白山□近江屋而左折、過小石川
　川植物園至有橋処渡而南過同心町、自金剛寺坂而帰
　三島、々田見過　小沼宗吉来見　昨夜有報、相馬永胤帰自欧洲
三十一日　乗馬晨至相馬氏家　笠木氏贈余以霊芝石并賜石書巻、此洵為珍品
八月一日　乗馬至牛込原町早稲田
二日　相馬永胤来訪［自外国還故也］
三日　乗馬ニ而堀之内江参ル
四日　入リ谷ニ牽牛花ヲ観ニ往ントテ谷中天王寺ヲ廻リ、雨ニ遇ヒ遂ニ入谷
　ニ至ラズシテ帰ル　終日雨
五日　雨又晴々又雨
六日　三時過ニ畢星ノ太陰ニ近ツギ将ニ貫カントスルヲ見ル　一天雲走リ南

ヨリ北ニ走ル雲間ニ之ヲ見ル　渡辺温氏来見

七日　〈八月〉此事唯先生

＊知余童時事方今独有湖山先生而已、是児之所以請題言□也、読此僕□唯　此篇叙僕当年先生　是□覓双親恩深未能報其万一而晩節之愈□不可以不戒矣、此文何可一日離座右哉、唯白髪澄倒　□伏是熱中乃善叙実伝家宝乃視頂門是一針也

＊知余童時事方今独有湖山先生而已、児之所以請題言也、読此覓双親恩深未能報其万一而晩節之愈不可以不戒矣、此文何可一日離座右哉

八日　乗馬至入谷観牽牛花

英文書簡指針題詞

心苟存忠信、蛮貊尚可行、修辞況合礼、四海皆弟兄、簡牘通和英、其要在一誠

九日　〈日　丙申〉得益之□頤　乗馬至永田街［森氏在家言所欲言而帰］

十日　〈月　丁酉〉乗馬ノ埒

十一日　〈火　戊戌〉乗馬至山口泉処家　艸幕府年中行事詩題詞(11)

十二日　〈水　己亥〉

十三日　〈木　庚子〉聖上御着ニ付ステーション迚御迎行ニ出る

十四日　〈金　辛丑〉

十五日　〈土　壬寅〉小指腫痛ム

十六日　〈日　癸卯〉腫膿出ル　山口氏被参

十七日　〈月　甲辰〉

十八日　〈火　乙巳〉

十九日　〈水　丙午〉

二十日　〈木　丁未〉

二十一日　〈金　戊申〉国史摘要〔ママ〕ノ題辞ヲ作ル　松村氏来

二十二日　〈土　己酉〉

二十三日　〈日〉釈宗演被参　正受老人崇行録并ニ衣笠粒納豆ヲ見贈

二十四日

二十五日

二十六日

小学修身作文一班題詞［岡本氏門人吉井量平嘱］

修身与作文、原来同一理。有徳必有言、立誠辞乃微。工夫帰一轍、夫豈豈其雕虫技。不養其本根、而治末☆矣。

二十七日

二十八日　本伝寺江参ル

二十九日

三十日　〈日〉

三十一日

九月一日　革士六君子豹変小人革面

二日

三日　喰代豹蔵見訪　『Rev. Thomas Lindsay』〔名刺〕

四日

五日　暁訪辻新次、報□昨日新次見訪也　支那人二名欲来学我同人社一件也

六日　〈日〉

七日　総生寛見訪

八日　芝辺ノ書肆ヲ閲ス　趙注孫子五冊、居業録六冊、尺牘双魚一冊、平津館本孫子ヲ得タリ

九日　斎藤篤信被訪

十日　長梅外氏ヲ訪フ、足疾ニテ不逢　川田氏江参リ大内青巒ノ文ヲ頼ミ置ク

琳瑯閣にて梅墩詩鈔、歳華紀□ヲ得タリ

〈十二日土曜日　訓盲院委員会〉

十一日　大学江参ル　五家詩文鈔ヲ艸ス？（ママ）

十二日　〈土〉訓盲院会　文部直轄願之事

十三日　〈日〉総生寛見訪、同人社記ヲ見贈　史記測議ヲ得ル［一三屋三一ヨリ］　是日伊佐早入塾ス

十四日　〈月〉

十五日　〈火〉大学、本科生周易ト定ム　学士会院へ断ヲ出ス

十六日　大学、第二年生孟子輪講始マル

十七日　〈九月〉大学、論語輪講始マル　総生寛見訪

十八日　大学、孟子

十九日　〈土〉大学休ム

二十日　〈日〉

二十一日　〈月〉大学、礼記始マル　高島氏見訪　田口外吉見訪

二十二日　〈火〉大学、哲学始マル

二十三日　〈水〉皇霊祭断リヲ出ス　相馬氏来ル　草ス二大日本人名辞書序ヲ一[12]

今日秋季

皇霊祭ニ付

参内可致候処所労ニ付不参仕候

此段御届仕候也

年　月　日

官　姓名　印

式部職　御中

二十四日　〈木〉大学、孟子　作節酒会詩五古［廿六韻］[13]

二十五日　〈金〉大学、礼記孟子　此夕本社官校予備校ニ聘スル棚橋一郎、井上円了、織田、井上、神津氏ヲ餐ス（大学）

二十六日　〈土〉訓盲唖院総会ニ出ル　大学孫子始ル　前島君ヲ訪フ

二十七日　日曜　山口尚芳見訪　細川君礼ニ被参

二十八日　礼記課［大学ニ出ツ］

二十九日　易経［哲学和漢文学四年生］

三十日　今日ヨリ二日迚所労断ヲ出ス　受験予備校試験

十月　〈五十三年六箇月〉

一日　伊勢屋長兵衛江祖母ノ悔ミニ参ル　本伝寺仏参

二日

三日　〈土〉大学、孫子輪講

四日　〈日〉馬車木地ヲ見セニ参ル

五日　〈月〉大学、礼記

六日　〈火〉大学、易（カ）

七日　兼而御内談申置候支那留学生二名□□之義、先ツ一個人某ニ就キ本邦ノ衣食住等の習慣を与へ然ル上にて官校入学為致旨ニ御決定相成候、因而（人）前題ハ留学生到着之始誘掖方負担之儀相心得可申（カ）様御照会候様成可仕候也、且ツ本件ハ文部□御配慮ノ義ニ付其辺も心得可申様是之承知仕候、右貴答申上度如斯御座候也（公□御托相成御照会□□）（有之□一□）

八日　大学

九日　大学、孟子

十日　大学、孫子　落合済三見訪
十一日　〈日〉
十二日　大学、礼記　訓盲院集会
十三日　大学、荘子　弗氏（フエネロザ）ニ葡萄酒ヲ贈ル　榎本公使ヲ訪フ
十四日　大学江断ヲ出ス
十五日　大学、論語　学士会院ニ出ル
十六日　大学江断ヲ出ス　訓盲院史料ヲ調ベル
十七日　神嘗祭　休日　同上
今日
神嘗祭ニ付
参内可仕候処所労ニ而不参仕候
此段御届仕候也
年　月　日　官　姓名　院
式部職　御中
十八日　〈日〉津田仙被参　高津柏樹被参　訓盲史ヲ修ム　馬車出来ル
十九日　今日ヨリ来ル二十一日迄所労断ヲ出ス
二十日
二十一日
二十二日
二十三日　大学、礼記・孟子
小牘拝稟仕候、益〻御起居清穆抃賀候、陳者上堂之上可奉願候処略儀御□免可被下候、小生
馬車此程（を誂らへ）出来参リ候処未タ御者ヲ得不申、就而者先般ヨリ御寵用被下候様君□竹次郎を御譲り被下候義者誠ニ難有奉存候、□小生之右願意御許被下候ハヽ竹次郎交代之者此相成リ申間敷哉、誠ニ申上兼候得共奉御願仕候、尤若し願意御許被下候ハヽ竹次郎精々交代之者を見立仕候、□御差支無御座候節御暇を賜ハリ候様仕度御座候、誠ニ手前勝手を申上恐入候得共事情御□察□□御奉祈上候　早々頓首
座候
二十四日
二十五日　〈日〉
二十六日　〈月〉大学、礼記　大隅国大島石瀬港　中村興（カ）左衛門
二十七日
二十八日
二十九日
三十日　授与式前日ニ付休業
三十一日　大学、学位授与式有之　茶渓先生一周年祭ニテ開花楼江出席ス
十一月　五十三年七ヶ月

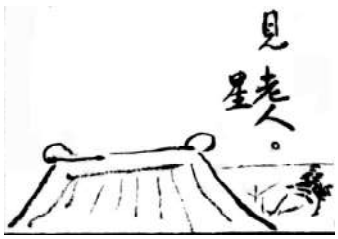
〔上欄外〕

一日　〈月〉　49
70
80
199
日曜日　訓盲唖院筆記編纂成ル　凡ソ二百枚
二日　大学　訓盲唖院ヘ日記類ヲ返シニ参ル　津田仙宅ヘ廻リ第三冊目ノ訓盲唖院筆記ヲ渡シ置ク　堤静斎ヨリ皆山閣詩鈔二冊見贈
三日　〈火〉天朝節（ママ）（ママ）参内ス　朝雨上午晴　夜会鹿鳴館江出席ス
四日　〈水〉大学、礼孟
五日　〈木〉大学、孟
六日　〈金〉大学、礼孟
七日　〈土〉大学、孫子

八日　〈日〉高津柏樹ヲ訪フ　訓盲唖院江参ル　大島堯田碑三円寄附ス
九日　〈月〉大学、礼記　観菊会参（ママ）　内ス
十日　〈火〉大学、論易荘子
十一日　〈水〉礼孟
十二日　〈木〉論語　深沢氏ヘ石ノコトニツキ手紙ヲ出ス
十三日　〈金〉
十四日　〈土〉青木□太氏ヘ二十円借ス　金玉均来訪
十五日　〈日〉学士会院江不参　Mr. Tholl来ル
豊嶋海城ヨリ二十円墓銘　お鉄、お高、馬車ニ而浅草公園ヘ参ル
十六日　〈月〉大学、曲礼スム　亀清楼ニ至ル、陳両農ヲ報知社ニテ傭入ニ付
栗本氏ノ招也　太田耕烟ニ逢フ
十七日　〈火〉大学江所労断リヲ出ス、易荘
十八日　〈水〉所労断ヲ出ス
十九日　〈木〉次ニ録スル文ヲ総生氏江遣リ評閲ヲ乞フ
送岡啓輔序　滴翠山房記　本木君墓碣銘　論子文　廉頗論　北条義時論　鞍
馬遊記　愛宕一　古墨堂詩序　敬天愛人説　竹盧記　贈葛西序　忠益説
高橋君墓碣　続国史略三編序
二十日　〈金〉盍簪社古文　遣人於外国　学思斎　左氏□鈔　美疢不如　存実
心　設孫呉一科　小松士龍　送鹿島侯序
二十一日　大学、孫子輪講　三島氏課業ノコトニ付発論アリ
二十二日　〈日〉落合済三君、山尾庸三君ヲ訪フ
二十三日　〈月〉新嘗祭休
二十四日　〈火〉大学、易小畜、荘子大宗師　午後訓盲蒙唖院委員会ニ出席ス
十傑伝ヲ買フ
二十五日　大学、礼記孟子

訓盲唖院商議委員
嘱托候事
明治十八年十一月廿五日
中村正直

二十六日　大学、論語
二十七日　大学、礼記孟子
二十八日　大学、孫子　今朝艸礫水遺稿序（14）　午後築地訓盲唖院ニ会ス
二十九日　日曜日　銀行集會所開業ニ付被招相撲
ヲ観ル　陳両農見訪
三十日　○天狼星
午前二時半起見老人星如圖〔下図〕




狗子有□性　□□有悪性
訓盲唖院江参ル　辻新次、大窪、平山太郎等來リ本
院ヲ受取ル
山尾、真中、津田出席ス　明日ヨリ文部管轄トナル
「柴門深鎖扣難開前度劉郎□又来何処主人留客酔日斜驄馬（カ）未嘗回　両農留
片」〔別紙〕
十二月　五十三年八ヶ月
一日　大学、易荘子　石を入レル約ヲナス
二日　大学ニ参ル、礼記孟子

三日　大学、論語
四日　大学、礼記孟子　伊東本支来ル　石ヲ入レ済ム
五日　大学、孫子
一翰拝呈仕候、益〻御壮勇被為御起居奉願候、陳者突然一筆御願申上度以□
儀以紙面奉願候、木平譲ト申ス者、小生隣地ニ住居致し居晩年十年前小生同様ニ
静岡ヨリ御当地江移住候節□ヨリ大蔵省江□□十等出仕ニ相成リ、東京府、文
部省等ニ転任いたし、只今本年に至リ非職ニ相成居候、若御府にて御使用被
成下候ハヽ於小生大慶御座候、御用繁ノ中恐入候得共□本人江御逢被下尚委
細御聞取可被下候、右願上度　早々頓首

〔敬宇中村正直「余訳節用論未完而奢敵論出于世湖山先生読之有所感作」五古八首見示因和其韻」切抜（13）〕

「　親睦会詩
満堂賓客与青衿
新旧共敦親睦心
自有清談霏玉屑
不須豪竹弄煩音
雪飛煤漫呈寒景
日照和温宜代繡衿
喜懼人情一時変改
天公意味自定応深
直

〔郵便はがき表　スタンプ「一八・一二・二〇」〕
「小石川同人社　京橋区山下町
中村正直大先生　廿弐番地
侍史　至急　高津柏樹
〔裏〕
「謹啓　過刻ハ講席奉多謝候
寒気御用心専一奉至祷候明後十
八年十二月十九日同人社友の親睦会に
雪ふり地ふるひけれハよミてなる
志ら雪も花と見るまてふりはれつ
おなし心平なゐにゆらせて
正乞
先生親睦会の大作御序ニ御揮毫奉希申候　百拝

六日　三好退蔵殿被参
七日　大学、礼記　訓盲唖院ニ参ル、山尾、真中、平山、大窪等出席
八日　風邪ニ付十一日迄大学江所労断ヲ出ス
九日
十日
十一日
十二日　大学、孫子　浜尾新送別会トシテ植物園ニ参ル
十三日　〈日〉朝茂木道一氏ヲ訪フ
十四日　〈月〉亀谷氏江書ヲ返ス　大倉喜八郎招キ［鳥尾君同席］

十五日　大学、易講泰　大木喬任君邸ニ至リ、来ル十九日同人社親睦会（八百松）ヘ被臨候義請ヲ許サル　是日賢所神楽被為行参（ママ）内（文部省惣代）十六日　大学［礼記論語］試験

十七日　大学

十八日　大学［孫子孟子］試験　浜尾新欧行ニ付新橋迮見送ニ参ル

十九日　大学江出ル　同人社親睦会、八百松楼にて開之

まんだらけまかまんだらけふりしけり

いはんやさらに六種震動

二十日

二十一日

二十二日　大学、本科生試験　廟堂改革始於是日

〈筮之得大畜卦〉

二十三日　大学江点数ヲ持参ス　藤堂様忘年会

二十四日　湖山先生江参ル　高橋氏［江戸川］ト福永天□里ビラキ

二十五日

二十六日　〈土〉真中忠直被参　九鬼隆義殿被参

二十七日　〈日〉揮毫ス　加藤清人被参　格蘭氏江返書ヲヤル

二十八日　高島氏被参　周易咸通之序ヲ托セラル

二十九日　宮内省江出頭シ歳末ノ御祝賀申上ル　加藤清人ノ妻被参　節用論板ニスル帋ノ代金三十六円ヲ吉田橘翁に渡ス

〔『郵便報知新聞』号外「政府の大改革」〕

〔「月犯畢宿第五」記事〕

履歴大略　　元松平稲葉守藩

八代洲河岸ノ　　信夫正淳男　粲［当時府下平民］

本邸ニ生ル　　天保七年申歳生

本年旧暦五十歳

明治三年三月四日　補十三等出仕　博覧会事務局

八年四月八日　月給三拾円雇　東京師範学校

十年十月十六日　文学部ニ雇　東京大学

其ヨリ引続次第ニ昇進

十六年三月廿三日　准奏任御用掛月俸六拾円給与候事　文部省

十□年十八年二月廿一日　非職被仰付候事

まんだらけまかまんだらけふりしけり　いはんやさらに六種震動

奏任（29
4185
284
1345
1278
67

142
29
58
116
29
4118
67
4185

一百四十二人
四千一百四十五人

明治十五年勅奏官之数

任
勅
142）

和四年　○戸田慎太郎

哲四年　○日高真実

○長浜市蔵

○板倉□之助

哲学撰科　○□本源太郎
易　　○内田周平

上総
上田　一反ニ付八表トレル　　下田　一反ニ付五俵トレル
　　但四年
一反上田地価金百五十円（七十）　一反下田地価九十円
　　地租　百分ノ三五
　　百円　三円五十銭
　　地方税　三円
　　協□費［一反一ヶ年ニ］二十銭
　　学校費　一ヶ年ニ六十銭

二日已上所労之方
所労ニ付今日ヨリ何日迄（或ハ今日ヨリ向何日間）不参仕候条、此段御届仕候也
　○病気ニ付引籠十五日ニ済ル分ハ診断書を添左之通ニ認ム
　　私儀
所労ニ而去何日ヨリ引籠居候処未タ全快不仕ニ付、猶引小籠療養仕度、仍而別紙診断書相添此段御届仕候也
右診断書添御届相成候上、猶荏苒数月ニ及時ハ六十日毎ニその病状御届出可相成候事

明治十八年十二月二十七日格蘭氏江返書

Mr. Cochran
　I received your kind letter remembering me & my family & containing good will of your family & also small book which is to be presented from you. I feel very much thankful of them.
　All I am prepossesed /for/ of many materials & reasons, no pure, but mixed, being /aga../ bewildered by many standing point, yet I am sure, that there must be a God, & that Christian influences are very healthy & good to both individuals, to state /though some parts of the Bible are very strange & difficult to believe/
　Please excuse me for not calling upon you very often. & blieve[sic] me that I never forget your preaching & teaching the Bible to me & otheres. & that
　I /am ... sure that your ...seeds I do not ... your pre/ seemingly unsup... fulness on your past during your staying in Kocshikan, was really beneficial profitable & udranlageaus[sic] to our part.

［裏表紙］

| | |
|---|---|
| 論語語由 | 四書章図大成 |
| 論語徴 | 四書講 |
| 論語皇疑義説 | 四書精言 |
| 蘇評孟子 | 同　異同条辨 |
| 孟子論文 | 同　正解 |
| | 三魚同四書大全 |
| | 注□□四書大全 |
| | 四書匯参 |
| | 四書□犀解 |
| | 四書困勉録 |
| 四書説約 | |
| 同　翼注 | |
| 同　□注集注 | |
| 同　大全辨 | |
| 同　直解 | |
| 同　日講解義 | |
| 同　浅説 | |
| 四書釈地 | |
| 慧眼山房説書 | |
| 四書輯疏 | |

注
（1）「跋高谷龍洲千字文後」（『敬宇文集』巻十五所収）。

（2）「隄威卿詩集序」（『敬宇文集』巻之一四所収）か。
（3）「済民実録題言」（『敬宇文集』巻十五所収）。
（4）「関氏」とは『明治字典』出版人の関博直であろう。同書は編輯人猪野中行、小杉榲邨、邨松守義、磯部栄太郎、片岡茂、李樹廷、総閲重野安繹、校閲中村正直。首巻、巻之一、二が明治一八年五月に出版された。
（5）「長真城墓銘」（『敬宇文集』巻十六所収）か。
（6）「梅外詩鈔第三編序」（『敬宇文集』巻十四所収）か。
（7）「題象山先生画山水」（『敬宇詩集』下巻所収）。
（8）「題画馬」（『敬宇詩集』下巻所収）か。
（9）「題子昂画馬」（『敬宇詩集』下巻所収）。
（10）飯島半十郎『幼稚園初歩』（明治18年8月出版）逸題の題辞。のち、「題幼稚園初歩」（『敬宇詩集』下巻所収）。福田仙蔵は『幼稚園初歩』の出版人。
（11）「幕府年中行事詩題辞」（『敬宇詩集』下巻所収）か。
（12）「大日本人名辞書序」（『敬宇文集』巻十四所収）か。
（13）「節酒會詩」（『節酒會雑誌』一巻二号（明治18年10月23日）、『敬宇詩集』下巻所収）か。
（14）「礫水遺稿序」（『敬宇文集』巻十四所収）か。

［十九年］五月ヨリ　五十四年一月トナル

我レ有リと思ふ心を捨よ唯身をハ命の有ルに任せて

〔「棒給月割」記事切抜、以上表紙〕

〔報知社広告「内閣制度に関する書類」切抜〕

〔「万年筆の広告」印刷〕

明治十八年丙戌一月　五十三歳九ヶ月

一日　朝八時二十分前至　内裏拝賀

主上并　皇后宮、九時至青山御所拝

皇太后宮

二日　朝九時半出門投名紙順序如左

相馬永胤　山岡　何　徳川様　山尾　カクラン　佐々木　勝　清公使　大

木　伊藤　西郷　大山　森　有栖川宮　井上　長岡　山田

岡田黄石君見訪

三日　元始祭ニ付参　内ス

暁作一詩［題］喜黄石先生見過次其韻

忽有高人訪艸堂、衡山歯徳可依傍、須臾咳唾成珠玉、此是新年第一祥

忽見昨年石橋雲来両度見訪余皆外出不遇

雲来作詩見寄因次其韵

捲歩帰未欲夕陰、新詩為得見其心、高人已向渙江発、鴻影無痕跡茫々何処守

拝年投名刺家々如左

北白川宮　杉孫七郎　大久保一翁　高橋岳翁　藤堂老公　信夫粲　細川潤

次郎　玉乃世履　重野安繹　九鬼隆義

四日　拝年所至家々如左

松平春嶽公　永井久一郎　寺田祐之　酒井忠惇　前島密　大隈重信　柳沢

信大

暁作詠西山公遺跡詩（1）　為亀井善述揮毫

五日　参内　新年宴会、是日好晴庭前有舞楽

六日

七日　大久保一翁殿見訪、話次曰

文恭公五十一歳以後不近婦人、痛節飲酒不満一盞、其壮時能尽一升由、其

実父君之諫而後改之

八日

九日　〈土〉午後東京学士会院開場

十日　〈日〉閲書肆至浅艸、一斎先生蔵本使致于家

十一日　〈月〉大学、礼記始　加藤弘之任元老院議官

十二日　〈火〉大学、本科生易否卦、荘子始

十三日　〈水〉大学、漢二年生孟子始

十四日　〈木〉大学、論語始

十五日　〈金〉大学、孟子

十六日　〈丙子　土〉文部省小集ニ付午後五時ニ東京師範学校ニ至ル［森大

臣出席ス］

十七日　〈丁丑　日〉仏参　堤氏ニ参ル　向山黄邨来ル

十八日　〈月〉大学、礼記　好文堂ニ廻ル　橘翁ノマキヲワルヲ見ル

中島龍山ノ事ヲ榎本氏ニ托シ度、左ノ書ヲ贈ル

＊小牘拝稟仕候、益御起居清穆被為渡奉抃賀候、陳者中島雄義、此度塩

田君彼地江被参候上ハ是迫の地位を保ツコト如何ト懸念仕候、縦ひ廃せら
れさるにもせよ尊公様の如ク御愛シ被下候義ハ万々不可望ト被存候、小生
因而大に憂思仕候、誠ニ恐入候得共逓信□権少書記官の末位の処ニ御採用
被下候ハヽ栄幸之至奉存候、　間敷哉　此節抑コレヨリ以下にても宜敷可有之御座候、
被下候様右　相成リ
相成候□事にハ
□□
猶其外ナリトモ御高粲ヲ奉煩度何分願上候、実ハ参□上之上ニて可奉願候処、
此節御用多奉存之処態ト差□扣へ以書面奉願候也　早々頓首

小牘拝稟仕候、益〻御起居清穆被為渡奉抃賀候、陳者中島雄義、此度塩田君彼地江被
参候上ハ是迫の地位を保ツコト如何ト懸念仕候、縦ひ廃せられさるにもせよ尊公様の
如ク御愛シ被下候義ハ万々不可望ト被存候、小生因而大に憂思仕候、誠ニ恐入候得共
逓信権少書記官位の処ニ御採用被下候ハヽ栄幸之至奉存候、此節抑コレヨリ以下にて
も宜敷可有之御座候、猶其外ナリトモ御高粲ヲ奉煩度何分願上候、実ハ参□上ニて可
奉願候処、此節御用多之処態ト差扣へ以書面奉願候也　早々頓首

十九日　〈火〉大学、易荘
二十日　大学、孟子
二十一日　大学、論語

岡田呉陽先生追遠会賦詩奉奠

呉山嶂兀越中望、遺愛在人誰敢忘、為是家庭敦教訓、能令蘭儆薫発芬
芳、光風霽月想手采、銀鉤鉄画近晋唐、歎息□浮生空鋟々、羨君道徳事潜蔵
辻斐来ル為法華経云々
〈二十四日午後一時ヨリ四時　中村楼〉
二十二日　大学、孟子［告子下スム］
二十三日
二十四日　〈日〉午後陳両農見訪　岡田呉陽小祥［岡田正之ノ招ニテ両国中
村楼ニ参ル］
二十五日　〈月〉大学、礼記

辻氏ヨリ被示候日蓮上人ノ書或ハ
山本勘助之書トイフモノコノ大サ
ノ小冊八本アリ
妙法蓮華経巻第一

二十六日　大学、易荘
二十七日　大学、孟子
二十八日　所労今明日断　本伝寺ニ参詣ス　古賀鋭君之墓ヲ拝ス
〈知ラズ意ヲ誦シテ　rote〉
二十九日　是日　有栖川宮葬儀門前御通リ筋ニナル
暁艸太平新報詩（2）
朝野新聞ニ「後任ノ噂」ト云フ箇条アルヲ見ル
〈得艮卦　訓刺之語　辱　contumely〉
三十日　午後三時ヨリ鍋島直彬君招飲　重野、松田、野口、巌城〔玉山カ〕
□□在坐
是日風雪
年々懶臥学者安、何敢塞炉衝凍寒、今日偶然逢瑞雪、江山得飽領奇□観
三十一日　日曜　加藤弘之ヲ訪フ
二月一日　大学孫子九変　明六社ニ参ル、新島氏ヲ招キタルニ病不会
二日　易荘
三日　孟子　好文堂ニ至ル

四日　大学、論語
五日　大学、孟子　好文堂ヨリ節用論十一部来ル　鳥尾君見訪会余不在
六日　〈土〉鳥尾君来ル　十二日出帆ニ付訪フ
七日　〈日〉万年インキヲ買フ　価五拾銭
八日　〈月〉人不可無自主之念　老当益壮
　大学、礼記
九日　納本添書
　西洋節用論　小本一冊
　　定価金四十銭

右明治十八年十二月十四日版権免許相成候、今般刷成ニ付三部納本致候也
　明治十九年二月九日　　東京府士族
　　中村正直　○
　　東京小石川区小石川江戸川町十八番地

内務大臣侯爵山県有朋殿

本月十一月紀元節宴会被為行候ニ付午前十一時参　内可仕旨被　仰出候条御達之趣明後ニ付謹承仕候右書面ニ依リ明後十一日紀元節午前十一時参　内可仕候也

本月十一日紀元節御宴会被為行ニ付午前十一時参（ママ）内可仕候条御旨謹承仕候仍之参（ママ）内可仕候也

記

一金二円四十銭　蔵板人　東京府士族
　東京大学教授
　正五位中村正直

第壱万四千五百五拾号明治十八年十二月十四日版権免許

但一部一冊　同定価金四十銭

○西国洋節用論　一冊　明治十九年二月出版
　但一部　一冊　六部代
　　同定価金四拾銭

右版権免許料上納候也
　明治十九年一月十日（ママ）　　右　中村正直　○
　　小石川区小石川江戸川町十八番地

東京府知事渡辺洪基殿

十日　大学江断リヲ出ス　東京府江上納金ヲ為持遣ハス
十一日　紀元節十一時参（ママ）内ス、九時半ニ参内スベキ処ナリ
西洋節用論ヲ明朝配達スル分
○大久保一翁　○神田孝平　○細川潤次郎　○栗本鋤雲　○田口卯吉　○鍋島直彬　三島毅　島田重礼　服部一三　○山尾庸三　○津田仙　○陸奥宗光
○渡辺洪基
十二日　〈二月〉大学、孟子　ミル政書ヲ読ム
十三日　〈土〉東京学士会院ニ断リヲ出ス
十四日　高津柏樹被参
十五日　大学、礼記
十六日　大学、易荘
十七日　大学、孟子　朝羅漢寺僧被訪　五時ヨリ重野氏へ参ル、倶在座者加藤弘之、島田重礼、杉亨二

十八日　大学、論語
十九日　五言絶句五十首作ル
二十日　同　　五十首作ル
二十一日　福島伝蔵来ル、一円ヤル
今日
仁孝天皇四十年御式年祭ニ付
参内可仕候処所労ニ付不参仕候
此段御届仕候也　　実印
明治十九年二月二十一日　官姓名　印
式部職
御中　　用紙みの紙
二十二日　大学、礼記
二十三日　大学江今日ヨリ二十五日迄断ヲヤル
甲府紅梅町中田亮年江タノマレノ書ヲ出ス
二十四日
二十五日
二十六日　大学、孟子輪講　是日迄二十一日ヨリ詩百首作ル
〈朝鮮李樹廷江金弐十円ヲ貸シ渡ス〉
二十七日　〈土〉斯文会ニ出ル、英学を加へるや否やの問題
大村武左衛門ヨリ被頼候山梨岡詩文序を清書す
三月一日一時ニ（ママ）内閣へ礼服ニテ出閣スベキ旨内閣書記官ヨリ被達
〔二月カレンダー〕
賀佐多椿斉七十寿　二十八日
雄藩曽奉職、卅載夢江湖、栖隠今多暇、図書聊自娯、童顔猶未老、健脚不須扶、孫子皆賢哲、喬松寿可俱
三月一日　〈月〉任元老院議官［御用召ニ而出　閣候処記載之通リ被任候］
二日　〈火〉元老院ニ出ル
三日　〈水〉同
四日　〈木〉
五日　〈金〉元老院ニ出ル
六日　メルキュレー　夕星
ヴィナス　暁星
マルス　レヲ　六日月ト反対ス
ジユピトル　ヴィルゴ　二十一日月ト反対ス

『亡兄宇津木静区少事大塩中斎天保丁酉中斎憤事唱乱亡兄執大義不動竟死之
今茲丙戌三月七日当其五十年祭乃設祭筵於墨江八百松楼敢請諸君子諒余至情
辱臨祭筵并賜金玉之辞以助蘋繁幸甚
明治丙戌二月　　岡本　黄石
補助　　巌谷　修
日下部東作　』

宇津木静区君五十年祭作此詩奉奠（3）

我読静区宇君伝、大塩後素尚可遜、幼時為僧好作詩、一月賦得千題徧、不
家蔵円機活法、有宇津木蔵書印、莫是君幼時所用　一月　万
欲碌々終浮屠、不欲区々事筆翰、一朝有悟良知説、後素敬君不敢慢、海内
相見語無□
荒饉餓莩満、而乃廩粟不知散、後素傾家為救邺、更欲唱首犯大難、君始諫
之不見聴、到底不欲与叛乱、豈無千秋論定日、吾豈一死不能弁、慷慨作書
所知義挙非
訣母親、自称幸人笑受刃、君死今僅五十年、論定大義如鉄案、黄石老人君
甘心□受賊徒
同胞、七五十五齢壮且健、及此半百祭典時、霊兮有喜如可見、兄是節烈大丈

夫、弟是聖代詩人冠、遥々与乃祖相輝映、忠孝一脈終始貫明時文左伝□相

七日　〈日〉田辺、長松、大久保三氏江手札ヲ出ス

黄石老人ノ亡兄宇津木静区君五十年忌ニ参ル、勝安房在席

八日　〈月〉元老院江出勤ス

九日

十日　元老院江出勤ス

十一日　記名之人被参菓子折見贈　『静岡県士族　友成安良』〔名刺〕

宮路助三郎被参

十二日　今日始テ元老院議事堂江出席ス、井田譲君提出スル米商会所条例改正案第一読会

十三日　東京学士院集会　大鳥君学問説ヲ演説ス　十河定保来

十四日

十五日　元老院江出勤

十六日

十七日　元老院江出勤　今朝元老院ニ盗アリ　本月議官始一般給料を盗ミタリ」　午後相馬氏江参ル　ヂクソン氏ノ宅ニ参リ「亜細亜協会」ノ弐年分［去年今年］合セテ金拾元氏ノ妻ニ渡して帰宅ス

〔「礫川学術交換会設立ノ主意」印刷物〕

十八日　塩田三郎を訪フ会其不在　磯部屋［本屋］へ立寄ル　一翁君ニ遇フ

文部書記官青木保氏被参、辻次官ノ意ヲ伝フ　教員学力試験委員之義ニ付頼マレテ承諾ス　人見寧来ル

十九日　元老院江出勤ス　是日大風昨日ヨリツヾク　午後四時頃ヨリ雨トナル

柴原和君ノ招キニテ参ル、盆梅誠ニ佳観ナリ　来客者藤堂老侯、長松、宮本、黄石、甕江、一六、鳴鶴、鱸松塘、春濤、矢下、末広、中洲

〔Asiatic Society of Japan　請求書　二月一五日付〕

「Received from Mr. K.Nakamura $10 in payment for Asiatic clues for 1886

Clara Dixon　」

〔Asiatic Society of Japan　領収書　二月一七日付〕

二十日　〈土〉柴原議官江礼詞ヲ申遣ル

昨日者盛筵に陪し殊絶なる花香に梅花薫し高雅なる賓客に接し興味誠に深く不覚大□郷に入り、近来之快事難有御座候、尊作の韻字

半ハ記し半ハ忘れ申候何卒御録し被下度奉願候、〇拙訳

有合に任せ入高覧差候、御子様方江なりとも御上ケ三部呈上仕候、一書□

早々頓首

二十一日　〈日〉春季

皇霊祭ニ付参　内ス

節酒会惣集会江出ル、演説ス、林茂淳聞書ス、畢テ三河屋江宴ヲ開ク

二十二日　元老院江出勤ス

二十三日　午前市牛谷迫乗馬ニテ運動ニ出ル［金沓ヲウツ処ニテ下リル］

午後藤堂様江参リ御打合ヲイタス

報知社創業会ニ参ル、両国中村楼也　金千疋礼ニ持参ス

二十四日　元老院ニ出勤ス、始メテ給料ヲ受取ル

東京学士会院江年金四分一を受取リニ人ヲ遣ハス

今朝藤堂様ヨリ使来ル

来月（四月）十一日（日曜日）ニ御枉駕被下積リニ定マル

藤堂様　三島毅　藤堂凌雲　大河内好古　松平信正　浅田宗伯　板倉勝達佃伊三郎、佐々木長七伜ノ茂吉被参

二十五日

二十六日　島田重礼来ル、三島氏ノコトニ談及フ　元老院江出勤ス

佃伊三郎芝居ニ往ク　鶴岡市太郎参ル

二十七日　小川町辺ニ参リ心理学［西氏訳］一冊［七十五銭］、心理学原本［一円五十銭］、カビ子ットローヤル［二円二十銭］、皇朝律例彙纂［五十銭］ヲ得タリ

二十八日　本伝寺江参ル　伊豆之客仏参ス

二十九日　元老院江出勤ス　伊豆の客今日ヨリ出立ス

三十日　乗馬ニテ谷中ヨリ上野辺ニ至ル

三十一日　元老院江出勤ス　午後塩田三郎北京行を新橋迄見送る

坪井為春（大木仲益）昨日死去之報アリ

一日　〈四月〉絵画共進会開キニ付出席ス　坪井次郎方江参ル［千疋香花料ヲ贈る］

二日　元老院ニ出勤ス　伊集院議官ノ母堂逝去ニ付贈物金壱円出シ合ヲ出ス、同氏宅江悔ミニ参ル　川田甕江君ノ宅ニ立寄ル

三日　神武天皇祭ニ付□□□参拝ニ出ル　刑法治罪法釈義ヲ取入ル、代金七円七十五銭

〈四日日曜　西郊ニ遊歩ス〉

五日　元老院、第五百八号第一読会

六日　午後宮本小一君江小集　勝、津田真道、浅田在座

七日　元老院江出勤

八日　元老院江出勤　長酡亭へ□村□次

九日　元老院江出勤　長□ニ条様園会

西徳目薬　日本バシ魚がし

十日　〈土〉

十一日　〈日〉午後五時藤堂様、浅田宗伯、板倉勝達、大河内松峯、松平信正、藤堂凌雲被参候

十二日　早朝高津柏樹被参、金三十円ヲ借リ度旨被申込候へとも手元不都合ニ付先ニ十円ヲ用立ル　元老院江出勤ス

大窪実氏江左之通リ書簡ヲ贈ル

一書拝呈仕候、益〻壮勇被為御勤仕奉賀候、陳者元訓盲唖院長心得兼教員高津柏樹之義ニ付愚見申上候、宜敷御聴取可被下候

同人義ハ該院設立前ヨリ教員ノ「カンヂデート」ニ相成リ居リ、設立ニ相成候始ヨリ教員を致し居り、既□□にして院長［大内氏］辞職後院長心得を会員投票にて院長を相勤居り、文部省江該院寄附仕候而も従前之通リ可相成、縦ひ御変革有之候にもせよ吾輩にて該院建物并金円寄附いたし候義ニ付キ、同氏大過失アラザル以上ハ免職ニ相成義様ナルコトハ夢にも不存候処、該院寄附以来未タ一年も不相成内ニ御諭に因りて免職ニ相成候、然るに承り候へ共御内諭も有りて「今ハ無余義ケ様ニ処分すれとも又々該院ニ採用すへき間右様可相心得」と被伝聞候由、左スレハ大過失の有し訳にハ無之と安心致し居候、本人□□□□元来質直ナル人物にも御座候間、一身を該院に委ね居り候□ニ付御内諭の通りニ再勤に可相成候御差図を蒙り如何様ナル方向ヘナリトモ勉励可仕ト被察候、文部省之御管轄ト相成候上ハ勿論御指揮を奉し候一己の存意を張り候義ハ有之間敷ニ御座候、小生も同氏を深ク憐ミ候義ニ付以後者何ニナリトモ警戒ヲ加へ可申ニ付此等の事実実情情実□―□義御賢察被下、兼而御内諭之旨如ク再ひ御採用相成候様、於小生も不堪懇願之至候也　匆々頓首

十三日　朝術馬

「読大倉氏貿易意見」（4）

浅草迄参ル「官令新誌」一円二十銭ニ付買求ムル

十四日　〈四月〉元老院ニ出勤ス、第五百九号軍用電信ニ係ル妨害者処分ノ件第一二三読会終ル
十五日　浅艸ニ至ル官
十六日　元老院ニ出勤ス　午後伊佐早氏ト共ニ紀平洲先生ノ墓ヲ拝ス
十七日　〈土〉午後護国寺辺ノ村落ニ乗馬ニテノリ廻ス　十河氏江五円貸シ渡ス
十八日　〈日〉上杉家江宋板史□［拝見ニ出ル］　謝恩会ニ小石川植物園ニ参ル
十九日　〈月〉元老院江出勤ス、第五百八号第二読会
二十日　〈火〉佃伊三郎来ル　南条文雄ヲ訪フ　田辺太一ノ令息次郎一招魂祭ニ参ル
二十一日　〈水〉元老院江出勤ス、第三読会畢ル　亜細亜協会ニ参ル　箕作、川本訳ノ二本購得ス
二十二日　〈木〉高島氏別荘江至リ四聖祠ヲ拝ス
二十三日　〈金〉元老院江出勤ス　尾崎三郎（ママ）ノ病ヲ訪フ　今朝伊三郎出立ス
二十四日　〈土〉飛鳥山マテ遊行ス　榎本大臣ニ逢フ
二十五日　〈日〉読刑法釈義52
二十六日　〈月〉中学師範学校教員免許学力試験［修身科］ニ付修文館江出ル
二十七日
二十八日　〈水〉元老院江出勤ス　観桜会［雨天ニ付不罷出］
二十九日　午後山口泉処ノ招ニ出席ス
三十日　〈金〉元老院江出ル　現行法 現法 三本ヲ得ル　伊佐早謙吉帰郷ス
五月一日　〈土〉艸後風土記序（5）　秋月胤永［昨日任第一高等中学校教諭叙奏任官四等］来訪
二日　〈日〉
三日　元老院出勤　観藤花于亀井戸［与高橋千一君偕］
四日　伊豆佐々木氏ヨリ書留郵便着ス
五日　元老院江出勤ス　学士会院ニ至テ聴講券ヲ求ム
ベンサム氏ノ利学正宗、立法論綱二書ノ原本及ヒ Short History of the English People（五円二十銭）ニテ買ヒ得タリ　午後高等師範学校ニ至リ国分寺氏ニ逢ヒ今度試験人ノ稿本ヲ同氏ニ渡シ品評モ渡シコノ一件ヲ了セリ
六日　元老院江出勤ス　五百十一号議事　朴準禹来訪
七日
八日　元老院江出勤ス　新橋ニ至リ朴準禹ヲ訪フ、既ニ昨日出帆セリ
九日　〈日〉
十日　〈月〉元老院江出勤ス、五百十一号議事アリ　如不及文ヲ得タリ
十一日　大久保躑躅園ニ遊フ
十二日　〈水〉元老院江出勤ス　近思録を買フ　相馬氏ノ子ニ名ヅク徳胤ト曰フ　李樹廷今日帰国ノ旨ニテ代理ヲシテ来ラシメタリ
十三日　相馬永胤得第三子始得男子、余名之曰徳胤、是日産後第七日設祝筵、招余及内人午第五時赴之
十四日　元老院江出勤ス
十五日　島惟精、昨日ノ喪式ニ不会ニ付其宅江参ル　護国寺ニ到リ霊宝物「ヲ観ル
十六日　〈日〉三好退蔵、岩村通俊ヲ訪フ会其不在
十七日　元老院ニ出勤ス、五百十一号第二三読会済ム
十八日　龍興寺ニ参リ羅漢図ヲ観ル　「十河氏ヘ十円借ス（ママ）　伊豆宇佐美村佐

々木氏ニ貸与スル金三百七十五円ヲ日本銀行江振リ込ム　又書留郵便ヲ以テ為替手形ヲ佐々木ヘ出ス　榎本大臣見訪　森大臣小集ニ参ル

十九日　元老院江出勤ス

二十日　午後二時ヨリ文部省江出勤ス　教員学力試験点数ヲ定ム

二十一日　元老院江出勤ス　浅艸公園開キ見物ニ参ル　琳瑯閣ニテ寺田弘氏ニ逢フ

二十二日　〈土〉福島県招魂碑文之礼トシテ金五十円［前以テ］贈ラル　指宿□□氏持参ス

二十三日　〈日〉肝付海門被参水道碑記ノコト被托　崇叡会ニ五円寄進ス

二十四日　肝付紹介書差出ス　大内　渋沢　福地　亀谷　榎本　浅田　高島　島田　大倉九通認ム　元老院江出勤ス

二十五日　新富座ニ参ル、演渡辺高野之事

二十六日　元老院江出勤ス　桐陽舎八勝詩（6）ヲ作ル

二十七日　文稿を整頓ス、活版ニ数部ヲアツラヘル積リ也

二十八日　元老院ニ出勤ス　本所ヘ廻ル　吉田橘翁ニ晤ス　田辺太一ヨリ志シノ菓子一折ヲ贈ラル［ソノ亡児ノ七々日トイフ］

二十九日　〈土〉島沢徹源ノ為ニ書ヲ作ル七十枚認ム

三十日　〈日〉森有礼氏尊翁八十寿筵ニ参ル　朝橘翁来ル

三十一日　〈月〉元老院江出勤ス、五百十二号第一読会

六月

一日　〈火〉北沢正誠之亡母ノ伝［杉田氏所作］ヲ評シ重野氏江廻ス　塩谷敏ノ母被参、来ル三日［午後三時ヨリ］其宅江招飲ヲ請ニ被参

二日　〈水〉元老院江出勤ス

三日　元老院江出勤ス、五百十二号第二第三読会

四日　元老院江出勤ス、商社法乙部会有之　津田君返金ス

五日　本屋（律院書房）にて本を買フ　木平　八□来ル　正直

〈青山□〉

六日　〈日〉伝法院介石碑成ル　鹿鳴館　日下義雄、牧野伴□事

七日　〈月〉元老院出勤

八日　〈火〉津軽承叙様御使来ル　尾崎三郎来ル　前嶋様江出ル、天野ニ逢フ

九日　宮本小一氏ノ病ヲ訪フ

十日　元老院出勤、商社法第一読会

十一日　元老院出勤、海軍公債証書条例第一二三読会

十二日　〈土〉

十三日　〈日〉

十四日　朝大鳥氏江参ル　津田氏江立寄ル　元老院出勤　午後大木議長宅讌会被招

十五日　清名家古文質集続、聯珠詩格ヲ得ル

十六日　元老院ニ出勤ス、海軍公債証書条例読会

十七日

十八日　元老院ニ出勤ス　小牧、寺田魯行送別会ニ参ル　堀切葛□ヲ観ル

十九日　小院無人午夢回、菖蒲花発映池台、此時正接蛻翁簡、彷彿声容上臆来

［和佐藤喜峰見□韵］

神田開花亭ニ参ル、坪井為春君之後室次郎君ヲ招待スル之宴也、加藤弘之、大鳥圭介在座

二十日

二十一日　〈月〉元老院、商社法第二第三読会終ル

二十二日　相馬氏ニ乗馬ニテ朝六時前ニ参ル、刑法艸案ヲ返ス

二十三日　〈水〉
〈水滸伝　タテ二十三行横十行代二円〉
二十四日　浅草江遊ブ、虎□孔雀ヲ観ル
二十五日　元老院江出勤
二十六日　〈土〉芝白金猿町八十六番地岡見清敦方（頌栄学校）江参ル
二十七日　〈日〉揮毫ス
二十八日　〈月〉元老院江出勤　検視読会アリ［裁判所管轄替之義ニ付］
二十九日
三十日　元老院江出勤　村田保ノ二子　向井泰蔵来［嘉一郎ノコトナリ］
七月
一日　森有礼氏江参ル、賀詞（7）ヲ届ケル
〈七月四日午後一時村田保氏江被招〉
二日　文部省ヨリ教科用図書検査委員嘱託可相成筈ニ候条［辻氏ヨリ申来ル］
三日　乗馬ニテ音羽目付辺ヲノリ廻ス
四日
五日　元老院出勤
六日
七日　元老院出勤
八日
九日　元老院出勤
〈十四日出ス文面〉
過日来風邪ニ御座候処今日も何分出勤難仕候間今一日療養仕度候宜敷御取計可被下候
十日　〈土〉
十一日　〈日〉
十二日　風邪ニテ御断ヲ出ス
十三日
十四日　不参御断ヲ出ス
十五日
十六日　〈金〉不参届ヲ出ス
本日ハ必出勤可致ト存寄候処
小牘拝呈仕候、本日ハ出勤之心得ニ御座候処、風邪何分未タ十分ニ快キ方ニ無之、因之今一日療養仕度奉存候、宜敷御取計可被下候仍之今日不参
七月十七日　大久保公ヨリ右之書入用ノ由申来
“On Bridges by Humber”
Pocket edition of Molesworth’s or Spon ls
〈八月六日　元老院〉
八月六日　元老院江出勤、給料ヲ受取ル
〃　七日　払暁上州ニ発程ス
〃　八日
〃　九日
同二十日　昨十九日旅行□□ヨリ上州ヨリ帰着仕候ニ付右御届仕候也申上候也
九月一日　〈十九年〉元老院江出勤ス
二日
三日　元老院江出勤ス
四日　ピーナルコード（サンホルド）一冊
プリンシプルス　ヲフ　ゼ　クリミナル　ロー（ハルリス）一冊
右を相馬永胤江返ス

五日　〈日〉門前ノ便所ヲ毀撤セシニ由リ北沢氏江礼状ヲ送リ狂詩ヲ添ヘル
　南風吹臭満吾廬、忍黙空過一月余、今日憑君撤汚穢、清風万斛夜窓虚
六日　〈月〉元老院江出勤ス
七日
八日　〈水〉元老院江出勤ス
九日
十日　元老院江出勤ス
十一日
十二日
十三日　〈月〉元老院江出勤
十四日　菱沼延蔵碑（8）ヲ作リ発送ス　永井重隆ノ墓銘（9）ヲ作リ発送ス
十五日　〈水〉元老院江出勤
十六日　有井範平来　藤川冬斎ノ碑（10）ヲ書シ発送ス
十七日　〈金〉元老院江出勤　阿岐三慧及伊藤安次郎へ書信并認物ヲ贈送ル
十八日　〈土〉宮本氏ノ行道兌ヲ評シ返ス
十九日　〈日〉板倉中来ル
二十日　〈月〉井上石鳴ノ文ヲ評シ返ス
　元老院出勤ス　仏文ノ日本民法二冊受取ル
二十一日　読仏文［日本民法］
二十二日　元老院江出勤ス　西徳江参リ目薬ヲ買フ
　〈柴田量太郎（カ）帰国ス〉
二十三日　皇霊祭不参
二十四日　風邪ニ付元老院書記官へ向ケ断リヲ出ス
二十五日　〈土〉豊田長江、神田区小川町壱番地　印一顆ヲ為贈
二十六日　〈日〉偶見磐翁年譜明治十一年
二十七日　〈月〉元老院江不参届断ヲ出ス
二十八日　山田新川来ル
二十九日　〈水〉元老院江不参届ヲ出ス
三十日
十月一日　〈金〉元老院江出勤ス　豊田長江来ル
二日　〈土〉
三日　〈日〉作学思斎記（11）
　先刻者久々ニ而拝光ヲ得歓喜踊躍ニ不堪候、先妣追善ノ為ニ来ル十日御来駕　御読経被下候
　義御承允被下家内一同ニ申聞セ候処大慶□□御座候、就而者御伴読之御方
　就而者伴読之御方
　御連れレ一人乃至一両人御連□—□被下候義一人或ハ二三人御召シ連レ被下候
　義如何様にても宜敷而も此義先刻申上□し候間申上候也　早々頓首
　棚橋大作氏ヲ訪フ承教寺ニ詣リ倉田省庵ト昔シ名乗ラレシ三村日修（身延
　山住持ニ近コロ推挙セラルヽ）上人ヲ訪フ、遂ニ来ル十日妙経読誦ノ為ニ
　弊宅へ辱臨シ玉フコトニナリ、真ニ栄幸ノ至リナリ
四日　〈月〉元老院ニ出勤ス　神田江廻リ絵絹ヲ買ヒ学思斎記ヲ認メ直ス
五日　川合清丸（鳥尾氏□□内）来ル、弥（ヤマト）実会ノコトニツキ談アリ
　〈十日ノコト〉和本金七十一論　外道著
　日修上人随行矢島慈教
　幸田担然
　わしの山常に住むてふ峰の月　かりに顕ハれかりに隠れり　元政
　　世の中の花の遊（カ）びに草臥て一トねいりせる君か手枕
　〈蔵□聖像〉
六日　〈十九年十月　水〉元老院ニ出勤ス　□□□
七日　本伝寺ニ参詣ス

八日　〈金〉元老院ニ出勤ス
九日　〈土〉
十日　〈日〉日修上人被参法華経一部ヲ読ミ実相院様ノ菩提ノ為ニス
十一日　元老院ニ出勤ス
十二日
十三日　元老院第五百二十六号火薬取締規則中改正删除之件
十四日　午後訓盲唖院江出席ス　来月第二土曜日慈善音楽会之事ニ付相談
十六日　〈土〉陸中国西磐井郡涌津村　佐藤平次郎
十七日　〈日〉揮毫　諸国ヨリ被頼者ヲ認メ郵送ス　朝重野氏ヲ訪フ
十八日　〈月〉元老院ニ出勤ス　島田重礼氏ヲ訪フ
十九日　大臣議長叙従二位
二十日　元老院勅任一等官従三位ニ転ズ
二十一日
二十二日　元老院江出勤ス　三村日修上人ノ使来ル
三十年前帰故開□携墨水
成節閑君持五戒明三蔵越去
西達洋巡半□向是読書悔□
相柴□□住延山何時
□□聯吟□同□層□山
□□□　和元政上身延山詩韻
二十三日　〈土〉浅艸書肆ニ参ル　町田君宅門外ヲ過ク
二十四日　〈霜降　九月中〉房宿廿e　是日
二十五日　〈月〉元老院ニ出勤
二十六日　日本橋辺ニ歩ス　日修上人、本伝寺実相院殿墓へ参詣ノ帰途ニ見訪
二十七日　元老院出勤
雪多作於戊巳日凡遇戊午亡未日天必変雨遇元壁二宿直日則免餘宿不可免
陳眉公珠碎録十四ヲ
二十八日　本伝寺仏参　日修大僧正之塔婆を建てありしを見る
二十九日　元老院出勤
三十日　〈土〉御用召ニ而出（ママ）閣候処、位階昇級ノ栄ヲ辱フセリ左之通リ宣旨ヲ領ス　正五位中村正直
叙従四位
三十一日　〈日〉伊勢山田河崎雄吉来ル、ソノ父ノ文稿預リ置ケル者　かゝ美平八郎江文稿ヲ送ル
十一月一日　〈月〉元老院江出勤ス　午後六時ヨリ吹上にてチヤリ子曲馬傍観被許、晩五時ニ出テ、十時半ニ帰宅致ス　町田君見訪
十一月二日　〈火〉漢書評林ヲ取リ入レル二円二十五銭
三日　〈水〉元老院江出勤　宮内省ヘ天長節ニ参（ママ）内ス
四日　〈木〉団子坂
五日　〈金〉元老院ニ出勤　楫取君江参ル
六日　〈土〉元老院ニ出勤　御所江観菊会　高橋泰山七十一賀筵ニ参ル
七日　〈日〉
〈十一月〉
八日　〈月〉元老院江出勤ス　訓盲唖院江集会ス　田舎茶話ヲ得ル
九日
十日　〈水〉元老院ニ出勤ス
十一日

十二日　〈金〉元老院ニ出勤ス　哲学祭有賀氏送別ニ冨士見軒ニ参ル
十三日　〈土〉築地訓盲唖院音楽会ニ出ル
十四日　〈日〉総生氏ト与ニ三河屋ニ於テ午餐ヲ喫ス　〇ノルマントン号義捐金二円報知社江為持遣ハス　〇大蔵将英来、性法講義ヲ見贈
十五日　〈月〉元老院ニ出勤ス、第五百二十九号三十号読会アリ
十六日　〈火〉町田君、信夫君ヲ訪フ、留守ナリキ　書肆ヲ閲ス
十七日　〈水〉元老院ニ出勤、第三十号二三読会　午後三時博愛社開院式ニ出席ス
十八日　〈木〉
十九日　〈金〉風邪之気味ニ付元老院ニ断リヲ出ス
二十日　〈土〉吉川書肆ニテ十大家文茅評□書ヲ得ル
二十一日　〈日〉宍戸君別荘ニ被招
二十二日　〈月〉元老院ニ出勤　此頃物干を屋根の上に建る事ニ従事決す、大工に命じて着せしむ
二十三日
二十四日　元老院ニ出勤
二十五日　埼玉県熊谷駅柿沼村林昇様ヲ訪フ
二十六日　元老院ニ出勤ス　小川町指物屋江立寄る
二十七日　同人社運動会
二十八日　〈日〉先日の礼　独逸書ヲ示ス
宍戸君、加藤君江参ル
二十九日　元老院出勤　吉川半七ニ立寄ル　秋月君ニ面会ス　職官志を買ふ
三十日
十二月
一日　元老院出勤　信夫山招魂碑(12)ヲ郵送ス
二日　午後仏参
三日　元老院出勤、五百三十二号読会
四日　〈土〉小川町辺ノ本屋ヲ閲ス
五日　〈日〉森大臣江参ル、徴兵令改正之義ニ付　箕作秋坪君葬式ニ参ル
信夫君被参碑文［黒田氏ヨリ被頼シ］ヲ托ス
六日　元老院江出勤　民法第一読会
民法調査委員
箕作　槙村　三浦　加藤　尾崎　渡　村田
〈十二月八日午前九時三十分　五百三十三号議按第一読会〉
映世之社
神威赫々赫々□祖徳
公与之配　永亨廟食
□□□
顕揚神徳為□□□□
七日
八日　元老院出勤［五百三十三号第一読会］　是夜火之見ニ於テ始メテ老人星ヲ見ル
九日　是夜月色好
十日　元老院議事有之［五百三十三号第二読会］　是夜月色好
十一日　〈土〉作諾曼頓歌(13)
十二日　〈日〉
十三日　元老院［五百三十三号第三読会］出勤
十四日　〈火〉同人社書類ヲ整頓シ東京府江出ス
十五日　〈水〉元老院出勤

十六日　〈木〉愈樾先生ノ命ヲ以テ井上（ママ）ヨリ印雪軒詩文鈔三冊、四書評本五冊ヲ贈ラル

十七日　〈金〉元老院出勤　イムペリアルジクショナリーヲ取入レル

十八日　〈土〉賦巌谷翁八十寿詩(14)

十九日　〈日〉

二十日　〈月〉元老院出勤　浅艸辺ニ参リ☆〔人＋攵〕軒敝帚鍾史鈔等ヲ得

二十一日　〈火〉

二十二日　〈水〉元老院出勤　欽定康□録ヲ得　木平商店江寄ル

二十三日　〈木〉元老院出勤、民法質問［是日為始］

二十四日　〈金〉元老院出勤　伊三郎来ル、金談ニ付テ之事

二十五日　木平商店開業ニ付被招

二十六日　伊三郎帰国ス

二十七日　〈月〉風邪ニ付元老院不参断ヲ出ス

二十八日　文部省ヨリ花生被贈　本伝寺ニ参詣ス　極楽水江廻ル

二十九日　御所江歳末祝賀ニ出ル　王奉常集小四、海堂叢書ヲ得タリ

注

(1)「詠西山公遺跡」(『敬宇詩集』下巻)か。
(2)「喜太平新報発刊」(『敬宇詩集』下巻)か。
(3)「宇津木静区君五十年祭作此詩奉奠」(『敬宇詩集』下巻)。
(4)「読大倉氏貿易意見題其首」(『敬宇詩集』下巻)か。
(5)「後風土記序⑮」(『敬宇文集』巻十五)か。
(6)「寄題桐陽舎八勝」(『敬宇詩集』下巻)か。
(7)「賀鶴陰森君八十初度」(『敬宇詩集』下巻)か。
(8)「菱沼延蔵君碑」(『敬宇文集』巻十五)か。
(9)「永井君墓銘」(『敬宇文集』巻十六)か。
(10)「冬斎藤川君紀念碑」(『敬宇文集』巻十六)か。
(11)「学思斎記」(『敬宇文集』巻十六)か。
(12)「信夫山招魂社碑」(『敬宇文集』巻十六)か。
(13)「諾曼頓歌」(『敬宇詩集』下巻)か。
(14)「賀巌谷翁八十寿」(『敬宇詩集』下巻)か。

**千八百八十七年　明治二十年日録**

二十年五月ヨリ五十五年一月トナル〔五十四歳四月満一年〕

記

四号活字二十二字詰漢文勺　　板〔百枚二十円　三百枚六十円

植代金弐拾銭　壱枚　　(100)

○　摺代金壱毛五朱　壱枚　　1　20セン

中　白紙　壱枚　壱銭壱厘

壱厘壱毛一朱　　100.20.00

下　白紙　壱枚九厘　　10.　2円00

壱厘九毛　　1枚　20セン

組壱板○　弐拾銭

摺一枚○　壱毛五朱

紙壱枚○　九毛〔別紙〕

十七年七月七日

授公爵　十人　九条

〃　鷹司

〃　島津

〃　毛利

〃　二条

〃　近衛

〃　一条

〃　徳川

〃　三条

〃　島津

授男爵　七十四人

〃五百〇三人〔別紙〕

授侯爵　二十三人

〔二十一人〕

〔依勲功□□〕

授伯爵　八十三人

七月八日

授公爵　一人

〃伯爵　二人

授子爵　三百十人

20.000
セン
2.000
2.　62
セン　毛

一部　三百枚

十部　三千枚

百部　三万枚

摺手間

紙代　合百枚十銭五リン

十ニワル百ニワル

〈三百□　一百部〉

壱部ニ付

板手間　二リン

スリ

十セン五リン

紙

合　十セン七リン

23
15
48
25
73

(73)
(8□)

13
□6
2□
18□
310
177
503

10
300
73
237

87
200
23
310

15
3
45
60
105

10.5
1 05
105
銭　リ毛□
セン

〇百枚〔スリ手間、カミ代〕□十銭五リン

千枚　一円五十銭

万枚　十(円五十銭)五円

十万枚　(九十一円五十銭)五十円

明治二十年

一月一日　朝十時三十分

朝賀ニ参内ス

二日　午後亀井戸ニ遊フ　初卯ニテ群集セリ

三日　朝十時

元始祭ニ付参内ス、ソレヨリ前ニ谷大臣及ヒ鍋島議官ノ邸ニ至リ、帰路ニ北

白川宮、森、伊藤、西郷、井上、大山諸大臣、大木議長ノ邸ニ至リ名刺ヲ投ズ

四日　山岡氏、勝氏に詣ル　勝氏ニ面晤ス

ジユリユス シーザル二冊、三円、グラント エンド シエルマン一冊、一円五十銭、ライフ オフ クライスト一冊、二円、ゼフンチシヴィルコード一冊、五十銭

右四種ノ書ヲ飯倉片町ニ於テ得タリ

五日　今五日新年宴会十時四十分参

内可仕候

明治二十年一月五日

——　姓名

宮内大臣伯爵伊藤博文殿

追而右参内之一月二日中御届可申上候処失念仕候条恐縮千萬御座候多罪奉萬謝候也

〔上欄外〕

参内ス　馬術警察、魯英関係論凡テ二冊、

高須氏ヨリ被贈

六日　午後三時ヨリ元老院議官新年宴会にて鹿鳴舘江参ル、七時半帰宅

是日侵雪至鹿鳴館、帰路雪止

七日　〈一月〉賀スル新年名刺ハガキ書簡凡四百二十餘、本社生徒在此数之外 4.62

八日　〈土〉読代議政体［ミル氏］

九日　〈日〉進徳館六年祭ニ被招　三浦議官邸ニ至ル［節用論三冊呈ス］　是日学士会院ハ断ハル

十日

十一日

十二日　朝木村一歩来

十三日　元老院ニ出勤、民法会読之処箕作氏病気ニテ不参、因而会読無之、京橋辺に参リ地学辞書、日本西教史下巻ヲ得タリ

十四日　来ル十五日開院候ニ付、同日午前第十時御参院可有之、此段及御達候也

十五日　元老院開院ニ付出勤

十六日　〈日〉育英会新年会ニ出ル、榎本、赤松、田辺、黒田、関、小菅智□

在座　吉田橘翁江敬宇文をアツラヘニ参ル　信夫氏ニ立寄ル、三嶋先在

十七日　〈月〉元老院ニ出勤ス　是夜雪

十八日　尽日出板ニ付スヘキ文稿ヲ整頓ス　三田村□蔵、雪ヲ侵シテ来ル

十九日　〈水〉風邪ニ付元老院江断ヲ出ス　是夜九時頃ヨリ同人社外塾壱棟焼ル、幸ニ怪我人無之且他家ニモ焼移ラズ以此聊自慰也

〈一月〉

二十日　養痾在家

二十一日　〈金〉元老院江不参断ヲ差出ス

来ル廿四日午前七時　御発輦、八時汽車乗御ニ付、勅任官之面々フロックコート着用新橋停車場ヘ御先着、同所ニ於テ奉送、奏任官ハ御道筋便宜之場所ニテ奉送候様御達有之度、御道筋書相添此段及御通知候也

但横浜在勤或ハ出帳之奏任官有之候ハヽ同所停車場ニ於テ奉送候様、予テ御達置相成度候也

二十年一月十九日　式部長官侯爵鍋島直大

元老院議長伯爵大木喬任殿

二十二日　〈土〉暁作川口子儀文書（1）、後俾送

二十三日　津田仙被参　同氏ニ托し金玉均ニ菓子料金十円ヲ贈ル

二十四日　御発輦ニ付新橋江参リ候処御延引ニ成ル　元老院江出勤

二十五日　御発輦ニ付新橋江参リ（ママ）両陛下ヲ見上ル

二十六日　〈一月〉元老院江出勤、民法会読アリ

二十七日

二十八日　風邪ニテ元老院江不参届ヲ出ス

二十九日

三十日

三十一日　元老院江出勤、民法会読アリ　浅艸辺江廻ル　吉田翁ニ逢フ　活板等ノ事、校合ノ事申談シ置

二月

一日　小野陟ヨリ書簡来ル

二日　元老院江出勤、所得税議案読会　杉山半三郎被参

三日　午後三時過ヨリ信夫粲ヲ訪フ

四日　元老院江出勤　磯部氏　熊野、塚原二　不参之由、民法読会無之

五日　〈土〉黒田議官宅江参ル、碑文之件

六日　〈日〉新富座ニ参リ伏見義民録ノ演戯ヲ観ル　斉藤（カ）氏ト偕ニス

七日　〈月〉元老院出勤、磯部氏民法講義アリ　是日給料ヲ受取ル

八日

九日　元老院出勤、民法講義アリ

十日　仏参　早起作新選三体詩序（2）　フルベッキ氏ヨリ暦書ヲ届ケ来ル

〈十一日紀元節〉

二月十四日午前第九時三十分　第五百三十五号議案第一読会

十一日　紀元節御断リヲ元老院江申込置候ニ付不参

十二日　〈土〉

十三日　〈日〉林包明、日本英学館開キニ付被招　学士会院ニハ断リヲ出ス

十四日　〈月〉元老院五百三十五号三読会迫スム　草案比照刑法治罪法二冊ヲ得タリ、八十銭　十河氏来ル、二円ヲ渡ス

十五日　野賀郡平ノ托スル三注四書序（3）ヲ艸ス

十六日　元老院民法会読、熊野敏三　近辺ニ歩ス

十七日　茨城県渡辺武助ナル者入門ヲ請フ　牛込辺ニ歩ス

十八日　元老院民法会読［会頭磯部四郎］　好文堂ヘ廻ル

十九日　〈土〉

二十日　〈日〉重野氏ヲ訪フ　神田辺書肆ヲ閲ス　是日阿鉄、阿高、信夫氏ニ招カレ参ル、柳橋ニテ大坂大夫

二十一日　〈月〉元老院江出勤［熊野氏］

二十二日　明宮殿下同人社ニ御為成、光栄ノコトニ有之候也

二十三日　元老院議事有之、所得税ノ件

二十四日　新橋停車場江（ママ）皇上御迎トシテ出ル

二十五日　元老院民法聴講、磯部氏　御所江廻ル、参賀ノ為（タメ）也

二十六日　游浅艸　暖無風

二十七日　艸青山鉄槍大八洲游記序（4）

二十八日　元老院民法聴講［磯部氏］

三月

一日　元老院議事有之、所得税法件

二日　身閑是貴人［夢中得此句］又夢枕山翁　腹痛ニ付元老院不参届ヲ出ス

三日　元老院江不参届ヲ出ス
四日　〈金〉同上　湖山翁見訪
五日　〈浴　土〉林学斎君見訪、以病裡謝、客扁在戸上而帰　至芝日カゲ町、木平商店ニ立寄ル
六日　〈日〉朝揮毫　遊亀戸梅園
七日　元老院民法聴講［熊野氏］
八日　加藤弘之病ヲ訪フ、曰ク昨日熱海江参リシト　遊(ニ)亀戸梅園ニ　浅倉ニテ御製詩文集ヲ得タリ
九日　元老院民法聴講［熊野氏］、物権終ル
十日
十一日　元老院民法［人権始マル］［磯部氏］
十二日　〈土〉
十三日　〈日〉午後東京学士会院江参廻ル
十四日　〈月〉元老院民法［熊野氏］　秀英社ニ寄ル、千字文民法ヲアツラヘル
十五日
十六日　元老院民法会ニ出ル、磯部氏　大倉孫兵衛ニ於テ広羣芳譜金六円ヲ得タリ、即チ湖山翁方江為持遣ハス
十七日　揮毫　元老院江断
　楠公訣子図ノ詩（5）ヲ作ル
妖氛怪霧満神州、天地難容奈此讎、暗涙同揮桜井駅、忠臣孝子共千秋
十八日　元老院民法会ニ出ル、熊野氏
十九日　〈土〉田中芳男氏江寄ル　琳瑯閣ニ於テ史緯ヲ見ル
二十日　〈日〉田中□□氏ヲ訪フ　水産税法□第一読会
史緯ヲ得ル価十六円［杜詩八観行□　遊名山　□益俗説弁　東西洋考ヲ下本ニヤル］
〈史緯百二十冊〉
礼記門0.75十六年　事物紀原.70同九月　周易新疏　.80十二月
法華科注090十七年五月　法□□名目.70
法華直談抄2.00十八年二月　法華入疏.70　金剛経瑞応論　.35二月
法華玄賛.75七月
官途必携.70十九年三月　法華経.38九月頃　読経□節3.50十八年三月
75　40
以上ノ書ヲ下本ニ払渡旨ヲ浅倉屋ヘ申遣ハス
千字文校合摺出来参ル　岡松甕谷来為書題字　野口英夫氏来ル
二十一日　水産税法□第一読会
春季皇霊会（ママ）　参内断ヲ式部職ニ出ス
二十二日　元老院、水産税則第一読会
二十三日　元老院、同第二読会
二十四日　元老院、水産税則第三読会スム　得満漢名臣伝、載（カ）臣伝、逆臣伝
二十五日　〈金〉元老院、民法聴講、イソベ　欽定授時通考五円五十銭ニテ購をナス
書金陵文鈔序　序後
余嘗与金陵先生為同僚其人醇謹朴
二十六日　〈土〉節酒会［玉川堂ニ於テ］ニ出ル　元老院惣体ニテ地方官ヲ紅葉館ニ於テ饗ス
二十七日　〈日〉亀谷氏見訪、同氏ヨリ祐天仏名一幅見贈　小川一真ヨリ写真ヲ被贈
二十八日　〈月〉元老院ニ出勤、民法聴講休ミ　上野工芸共進会江廻ル　一昨

廿六日宮路助三郎死去之義、佐久間貞一ヨリ申来ル

二十九日　自叙千字文ヲ重野氏、信夫氏、佐藤喜峰氏ニ贈ル

三十日　元老院ニ出勤、民法講ナシ　文明堂江寄ル　昨夜重野氏ヨリ詩義折中八冊為持来ル

〈卅一日　議事有之　午後八百吉ト共ニ上野浅草ニ遊ブ、桜花三四分開キタリ〉

四月一日　元老院民法聴講［イソベ氏］　成立学舎開校ニ臨席ス

世説講義十冊、紡斎画☆四冊、新選円□錦□三冊、賞心贅録四冊、五経礼記十四冊、皇朝□例策纂一冊、大蔵経綱目指要録八冊、楞厳蒙鈔二十冊、右ヲ下本ニヤル積リ、而シテ欽定

通鑑輯覧六十四本□—□

四月二日　小雨　川室（上島）清造見訪　伊東（ママ）ノ女於道里ヒラキ有之旨

三日　神武天皇祭参（ママ）内ス　佐々城伊東本支、十七新納卓尓等二十余名　一木平譲、二柳沢信大、三飯塚八百太、四巌本善治、五平田八郎、六高津（ママ）、七神津専一郎、八大橋素六郎、九渋谷啓蔵、十吾妻兵治、十一木村焉、十二楊春林、十三峰源次、十四朝比奈、十五大蔵将英、十六伴直之助、十七新納卓尓　十八東条世三、十九杉山、二十斉藤左金吾　招余于松源楼上謝旧恩

四日　〈月〉元老院出勤

人生当著幾両屐人不磨□々磨人、吾有蔵書二千部奈斯石火電光身

五日　〈火〉元老院出勤、民法□□五百三十七八号第二読会

同人社親睦会基礎金として五十円該会江寄附スヘキ旨、佐々城氏江申ツカハス

六日　〈水〉元老院出勤、民法イソベ　風邪之気味ニ付養生□□

下毛太田原宿　北条諒斎ヨリ粉袋壱ワ贈ラル

風邪ニ而養生ス

七日　元老院出勤民法クマノ

［四日］○大倉喜八郎江被招、三好中将、渡辺大学総長在座

八日　元老院出勤、民法、クマノ

九日　〈土〉風邪ニ付終日在宿　明日学士会院不参ノ義ヲ書記官ニ申シヤル

十日　〈日〉風邪ニ付学士会院ニ不出

十一日　元老院ニ出勤、民法会ニ不出　ベイン氏ロチッツ書ヲ買フ

十二日　元老院ニ出勤　川村諱ヘ写真ノ礼ヲツカハス　鎮目要七江書ヲ届ケル

十三日　元老院江出勤、民法、クマノ　大木議長妻明子十二日病死、来ル十八日一時葬式ノ事

十四日　小金井ニ往キ一吉ト共ニ観桜

十五日　元老院出勤

十六日　〈土〉午後高嶌氏聖祭ニ付、長松氏ト約シ同行ヲ約ス

十七日　〈日〉海江田氏留別会ニテ紅葉館ニ参ル

十八日　〈月〉元老院出勤、民法、クマノ　議長妻君葬式ニ青山墓地江参ル

十九日

二十日　〈水〉所労ニ付元老院江不参　内閣ヨリ下付ノ民法案可返上旨達シ有之候旨申来ル

二十一日　（午）朝金井之恭ヲ訪フ［為信夫氏事］　午後三時観桜会、浜離宮江出ル

二十二日　〈金〉元老院出勤　御所江昨日ノ御礼ニ出ル　同人社運動会ヲ観ニ飛鳥山ニ参ル

二十三日　〈土〉元老院出勤　斎藤丁治携其伯父写書来

二十四日　〈日〉海江田議官ノ宅ニ至リ先日招飲ヲ謝ス　芝区ニ廻リ日光山志

五冊.60、資治新書二十四冊.70ヲ得タリ
二十五日　〈月〉元老院出勤
二十六日　作鹿児島神社碑文（6）
二十七日　元老院出勤、議事有之、取引所条例第一読会有之　神皇紀略、攷古質疑、朝鮮史略ヲ得タリ
二十八日
二十九日　元老院出勤
三十日　午後海江田信義欧行送別トシテ新橋マテ見送リニ参ル
五月
一日　〈日〉信夫恕軒、高津柏樹、松野礪被訪
二日　〈月〉元老院江出勤
三日　亀井戸観藤花　渡辺碩也江序文（7）出来ニ付郵便ヲ以テ送ル
四日　〈水〉元老院へ出勤
五日　元老院、取引所条例第二読会　福原実氏ノ宅ニ参ル
六日　〈金〉重野氏江曽国藩全集ヲ持参シ貸ス　元老院、取引条例第二読会出勤
七日　〈五月　土〉元老院、第三読会出勤
八日　〈日〉東京学士会院出席、漢学不可廃論ヲ演ス
九日　〈月〉元老院出勤　有栖川様［一品熾仁親王］苑遊会江出ル
十日　小畑蔦次郎、津田仙ヲ訪フ
十一日　〈水〉元老院出勤
十二日
十三日　元老院出勤　作世界列国行末題辞　日高誠実ノ招ニテ両国中村楼江参ル、会者小沢中将、三好司法次官、重野、川田、南摩、城井、枕山、張滋昉、姚文棟等ナリ
十四日
十五日　〈日〉快晴　伊豆佃伊三郎、浜野（ママ）来
十六日　元老院議事有之、食塩無税輸出之件
京橋区木挽町壱丁目十一番地　杉山信平内　佐藤文策　江口俊二郎偽ノ卒業ヲ製シ候件ニ付同氏江返書ヲ認メル
十七日　佃、浜（ママ）二氏当地ヲ発ス、一吉伊豆へ参ル
十八日　元老院出勤　下谷浅艸辺ニ参ル
〈熊本県、金森道倫見訪〉
十九日　欽定四経三礼義疏、周易述義、詩義折中、合弐百本、金十一円ニテ取入レル
二十日　元老院出勤
来ル二十三日月曜日ヨリ磯部四郎出席ニテ民法講義従前之読会相開候間、此段及御通知候也
二十年五月二十日　大木議長
二十一日　〈土〉風邪ニテ療養ス　八百吉、夜伊豆ヨリ帰宅ス
二十二日　〈日〉
二十三日　元老院出勤
二十四日　是日大久保一翁君等授子爵　少泉詩集二冊、巡視河北僉集、京山王公
二十五日　元老院出勤、私設鉄道条例検視会
拝承誦
尊教　深
朶雲□慰鄙懐、明日午後四時高
貴国名士会見□於新橋千歳楼、容不肖参陪席末、何栄如之、応敬順依崇佳命

耑此佈覆併候

二十六日　午後四時ヨリ姚文棟ノ招キニテ新橋千歳楼ニ参ル（8）　王詠霓、孫点、劉坤［箱館副知事］、厳宝増、楊枢、陶大均、向山黄村、重野成斉等在座

二十七日　元老院出勤

二十八日

＊謹啓、前日玉趾（ママ）得奉清誨、感謝不罄、所借高文二篇今漸写了、理高軒見過弊廬所椅謹此異□小

当詣謁貴府返趙、乃以郵便送達、幸恕無礼、且従貴命（ママ）附以拙評不独胆敢取見否収是望且謹遵尊命真不足博

罪、亦恐不足博一粲也

張肅昉先生

謹啓、前日　玉趾得奉清誨、感謝不罄、所借高文二篇今漸写了、理当詣貴府返趙乃以郵便送達、幸恕無礼、且従　貴命附以拙評不独胆敢取罪、亦恐不足博一粲也

法越交兵記序評＊

是言不可使亜洲隆堂々正々亜洲人□徒之論可　文不過百余字、而亜洲自強之策与我両国睦隣禦侮之方皆在焉、可謂有用大文字矣　○虚橋二字、吾以譬之相撲［角力戯也］之小弟子喩之其対大関［上首之人］也、瞋力怒目張肱咆哮鼓気勢方逞虚橋之気勢尽以抗之、大関則不動□□微笑少応之而已貴邦即大関也矣

堂々正々文不過百余字、而亜洲自強之策与我両国睦隣禦侮之方皆在焉、可謂有用大文字矣　○虚橋二字、吾以相撲［角力戯也］之小弟子喩之其対大関［上首之人］也、瞋力咆哮鼓気勢以抗之、大関則微笑少応之而已矣

是日綱川昊南［日本橋区浜町三丁目壱番地］江手紙ヲ出ス、枕山翁ヲ招飲スルノ義ナリ、彼ノ留守者ヨリ返書参ル

二十九日　〈日〉勝安房君ヲ訪フ　伯爵ヲ授ラレタルヲ祝シニ参ル　溝口君在座

三十日　〈月〉元老院出勤、イソベ民法講

三十一日　作土氏論理学序（9）　三魏集ヲ取入レル

六月

一日　元老院出勤　明六社江五時ヨリ参ル

二日

三日　〈金〉元老院出勤、検視会

四日　岡本監輔氏江被招

五日　〈日〉枕山翁、綱川昊南ヲ招キ馳走ス

六日　元老院出勤、民法聴講

七日　保坂祐吉見訪

教育法令題辞　新潟頸城郡　白川準次郎

題辞　十日ノ事也

情感令和□適。性気令禁圧。善意令発動。善教令融洽。至誠通神明。□久忍期無

凱捷。空瓶須先洗浄。而慎所先入後慎其所入

八日　元老院出勤、民法聴講

九日　得遜志斎集

十日　元老院出勤　浅艸ニ至ル　高橋君ヨリ十円［節用論代］受取ル

十一日　土

十二日　日　隅田川ニ花菖蒲ヲ観ニ参ル

十三日　元老院出勤　午後寺田弘、小牧氏、鈴木氏帰朝祝宴　黄村、渡辺□、川口翼、重野、浜村、奥並□、小牧、陰奕亮、石坂、木村信卿、小寺、猪野、森山

十四日
十五日　元老院出勤、民法聴講
十六日　高橋金十郎産男子　原田一道君見訪
十七日　元老院出勤　愛敬餘唱十五部受取ル
十八日　風邪ニ而脚湯
十九日　〈日〉和洋相撲ヲ観ニ参ル
二十日　〈月〉元老院出勤、民法聴講
二十一日　〈火〉
二十二日　〈水〉元老院出勤、民法聴講、前置条例
二十三日
二十四日　元老院出勤、議事有之
二十五日　新富座観劇
二十六日　〈日〉新富座ニ参ル　谷保村本田定年江文ヲ返ス
二十七日　元老院出勤、民法聴講
二十八日　〈火〉
二十九日　〈水〉元老院出勤、議事有之　林昇君見訪
三十日　細川議官小石川別荘ニ被招
七月
一日　元老院出勤、議事有之
二日
三日　〈日〉榎本君江参ル、林昇君ノコトニツキ　飯田町写真ヲ取リ（「古典卒業生徒ト共ニ」）冨士見軒ニ於テ晩餐ヲ受ク
四日　〈月〉元老院出勤（「出勤前林昇君旅寓ヲ訪フ」）
五日　〈火〉元老院出勤議事有之　原田君江参ル　細川君江品行論ヲ贈ル
六日　〈水〉元老院出勤［民法講義有之］　午後中村弘毅君送葬
七日　〈木〉
八日　〈金〉元老院出勤
九日　〈土〉工部大学音楽所、小石川植物園江参ル　一吉亜国江出立ス
十日　〈日〉学士会院［臨時会］
十一日　元老院議事有之　田尻氏来　北沢、佐藤二氏請余為小石川衛生会長
十二日
十三日　〈水〉元老院出勤
十四日　〈木〉風邪ニ而榎本氏江不参　右ニツキ林昇君江其段申上ル
十五日　〈金〉元老院江風邪ニ付断ヲ出ス
十六日　〈土〉元老院出勤
十七日　〈日〉
十八日　元老院議事有之
十九日
二十日　元老院議事有之　小石川衛生会始開行式
廿一日
廿二日
廿三日　七月廿六日午前第九時　第五百四十九号議案［気象台云々］第二読会
七月廿七日午前第九時　第五百四十四号議案［逃亡犯罪人云々］第二読会
廿四日　〈日〉三位殿、暑中伺
廿五日　元老院出勤、民法　和同小学校開院ニ付伝通院江出席ス
廿六日　元老院出勤
廿七日　元老院出勤

廿八日　元老院出勤、議事有之、中学ノ条件

廿九日　元老院出勤、民法聴講

一簡拝呈仕候、酷暑之節難堪□座候処益〻御壮勇被成御起居奉抃賀候、陳者大
大衛身分之儀ニ付深ク御配慮被成下候段同氏ヨリ承リ大悦御座候、同氏ハ
事
弊社ニ於き英学ヲ修メ忽チ進歩し候も、畢竟郷里ニテ□□夙ニ漢
学之基礎有之候故ニ御座候、□ー□人物ハ、且人物ハ手堅ク有之候、下僚ニ陸
翻訳ヲ致ス程ニ相成候
沈いたし候ハ可惜義ト奉存候、セメテハ奏任ニ出身為致度ト存候、何卒此上
とも御尽力被下候様於小生懇願仕候、右上堂にて申上候義候へとも却而炎天
ニ在ル時ヨリ
ニ熱客ト相成候而ハ如何ト差扣へ一書ヲ以テ奉得貴意候

三十日　〈土〉

卅一日　〈日〉

八月一日

二日　携於鉄、於高游于絵島

三日　廻於鎌倉而皈

四日　合川正道来

五日　前日御話有之候旧林大学頭儀に付逓信省中某課に於て試ミの為め本人ニ
翻訳物ヲ為致度見込有之候ニ付、本人を御都合次第出府御申通有之度、而し
て其文字之手際次第にて雇料とか翻訳料とかを相定可申積ニ御座候、此段得
貴意候也

八月五日　武揚

中村老兄侍史

六日　元老院ニ出、給料ヲ受取

七日　吉田橘翁江参ル

八日　林昇様被訪

九日

十日

十一日

十二日　日光ニ向ヒ発程ス　高橋金偕焉

十三日　游中禅寺

十四日　拝閲（ママ）宮　午後十時帰宅ス

十五日

十六日　是日［午後三時］大雷、後聞処々落雷

十七日　高尾山ニ游フ

十八日　帰路本宿ニ数刻立寄ル

十九日　是日二時後日蝕

二十日　林昇様見訪

二十一日　遊池上浴所、於鉄、於高従焉

二十二日　得一吉着亜国後第一書

二十三日　元老院江参リ帰着［昨日帰着］之旨届ル

二十四日

二十五日　早朝浅艸へ参ル　医書数種ヲ得

二十六日

二十七日　墨堤ニ遊ヒ秋ノ七艸ヲ観ル

二十八日

二十九日

三十日　日修上人ヲ訪フ

三十一日

九月

一日　金一百円、林包明江用立ル
二日　元老院出勤
三日　水谷仁海見訪
四日　〈日〉
五日　元老院江風邪断リヲ出ス
六日
七日　元老院出勤　吉田橘翁ニ廻ル　南摩氏ヨリ記仙五部被贈
八日
九日
十日　林包明ヨリ金子返済ス
十一日　〈日〉津田仙氏ヲ訪フ、字書二冊借帰
十二日　元老院出勤　平岩愃保送別開花亭ニ参ル
十三日
十四日　元老院検視会
＊其後心外御無音候、涼冷相催候処益〻御文履清祥奉抃賀候、陳者大野太衛ト申ス者、敝社にて文学雑誌発行いたし候際、その輯編□□ヲ致し□漢学教員をも兼たる□□□□□候者ニ御座候、右輩ヨリ新聞記者トナリ度志願有之、就而者御社にて本人相応之適当御採用□□□所江御使用被下候　義ハ相成申間敷哉、此段偏ニ御配慮ヲ奉煩候、委細者本人江御逢被下御聞取可被下候
一翰拝呈仕候
口頭ヨリ
其後心外御無音候、涼冷相催候処益〻御文履清祥奉抃賀候、陳者大野太衛ト申ス者、敝社にて文学雑誌発行いたし候際、その輯編ヲ致し候者ニ御座候、右輩ヨリ新聞記者トナリ度志願有之、就而者御社にて本人相応之所江御使用被下候義ハ相成申間敷哉、此段偏ニ御配慮ヲ奉煩候、委細者本人江御逢被下御聞取可被下候
十五日　神田祭礼　晴　津田仙氏ニ書籍ヲ返ス　林包明ニ二十五円借ス　同氏ニ四十五円借ス
〈作箕作秋坪墓銘〉(10)
十六日　元老院出勤　鳥尾君ヨリ著書ヲ贈ラル
十七日　佐藤正興来［火薬庫云々ノコト］　野口英夫来
十八日　〈日〉於鉄、信夫氏江過日之礼ニ参ル
十九日　〈雨〉元老院出勤　福原氏ヨリ揮毫書ヲ托セラル
二十日　一翰拝呈仕候、涼冷日ニ加リ候処益〻御起居清穆奉抃賀候、陳者林昇之義ニ付明々御高配ヲ蒙り難有御座候、御督催促ケ間敷奉恐入候得共、何卒傭ト申ス名義ヲ賜ハリ若干の月給度御座候、右様ニ相成候へ者本人実ニ難有可奉存、小生ニ於ても感謝之至ニ不堪候、右参上可奉申上候処、却而御清暇御妨申上候ヲ憚リ以指上陳述仕候　早々頓首
二十一日　元老院、撿検視会及議事有之
甲斐氏乞詩
人々具本有明徳、猶地中有水、古来許多教、不過示之耳、奈何塗々附、乙非而甲是、与君把手笑、大道豈有二
題富嶽図
東海之仏人、八字割双脚、独立美儀容、朝天終古碧、聞道云是画之者、鶴齢已過百、挂壁与之対、胸襟為恢廓
二十二日
賀大村桐陰翁(11)
翁也寿而康、人間第一福、所修何仙術、所服何霊薬、問翁々無語、請陳忖度所、翁少勤好読書、継晷以灯燭、暇倦輙講武技、壮大強筋力、抜擢参藩政、勤勉窮曛旭、間雖耽吟詠、曽不溺酒色、以是躋七秩、身体真尚矍鑠、児孫欲学□在□□似翁、勤字是典法則
賀山内光宣六十寿(12)

翁曽叩艸屋、容止甚清修、宿願非私己［謀建刻春山公書於石建碑来東京而有礙不果］、星奔不憩休、寿筵開七秩、佳句集名流、山水禀霊異、行将亜老侯［宇和島春山公今年九十有八］

元老院議事有之

二十三日　〈○〉秋季皇霊祭之処、御所江可罷出候処、元老院書記ヨリ断リ不参

二十四日　〈土〉

二十五日　〈日〉

二十六日　〈月〉元老院議事

二十七日

二十八日　〈水〉元老院出勤、民法聴講　米置場ヲ作リ始ム

二十九日　改鹿児島神宮碑文

三十日　〈金〉元老院議事、阿片ノコトニツキ

十月

一日　〈土〉大石、大山、岩浅三氏教課書借債事ニ付キ来ル　林昇様御来駕有之　浅野氏［吉村孝雄同道］ヨリ菓子料［五十銭］被贈［入社ニ付］〈村田峯次郎来ル〉

二日　〈日〉林昇君被参　箕作秋坪碑文ヲ菊池氏江ツカハス

三日　元老院議事有之［尾崎氏起草之件］　林昇君ノ事

〈作山本央人碑文(13)〉

四日　元老院議事有之　榎本氏江手紙ヲ送ル、ソノ返事ヲ得ル

〈三沢業広帰国に付被参〉

五日　元老院議事有之［鳥尾君起草ノ件］

六日　〈好晴〉箕作大麓被参　金十郎私立大学校之案ヲ示ス

七日　元老院議事有之　朝依田孝被参　秋坪君墓銘之事ニ付重野氏江参ル処両度トモ不在

〈林包明ヨリ七十両返ル　午後雨〉

東京府士族

［本貫族籍］

従四位　中村正直（マサナヲ）

天保三年壬辰五月二十六日生

夫人　鉄子（テツ）

［現在住所各番地］

天保弘化八年丁酉正月元日生

右爵位録編纂ニ付入用候間、付箋ノ件ニ御書加ヘ御返却有之度候也

華族局

明治廿年十月七日

戸籍課

八日　〈土〉

九日　〈日〉

十日　元老院議事有之　英吉利法律学校卒業式ニ参ル［開校ニ付］高橋金十郎、近県江出立

十一日　内子ト共ニ仏参ス　箕作阮甫翁墓ニ謁ス　斎藤丁治来ル

十二日　元老院議事有之

十三日　日修上人ヲ訪ヒ諸仏之説ヲ承ル　鳥尾君見訪

山梨県甲府柳村四丁目　大黒屋方　高橋金十郎ヨリ電信参ル

十四日　元老院議事有之［鳥尾氏意見書ヲ全部付托調査委員ニ付スルコト少数ニテ消滅ス］

十五日　〈十月〉鴈屋清吉ヨリ書ノ礼被贈

十六日　〈日　止酒〉古閑利和始メテ被参　信夫琴子、淳平被参　異見ヲ申聞

ル　大野氏ノ為ニ書ヲ認メ渡辺洪基ニ採用ヲ頼ム　五車楼広告文ヲ改メテ五車楼ニツカハス

十七日　〈止酒　月〉神嘗祭

十八日　〈止酒　火〉華厳経ヲ読ム　林昇君被参　高橋金十郎、十六日長野県ニ赴ムノ報ヲ得タリ

十九日〈止酒　水〉□四十一号二読会ノ元老院議事有之　林昇君ノ事ニ付榎本氏江廻ル［留守ニ付口上書ヲ置キテ帰ル］

二十日　〈止酒〉琳瑯閣ニテ島田氏ト面晤ス

二十一日　〈止酒〉元老院議事有之

二十二日　〈止酒〉浅艸本所辺ニ廻ル

二十三日　〈止酒　日〉浜尾新、信夫粲来　柳島孝美被参、高梨作兵衛伝ノ篆額ノ礼として其子ヨリ箱根細工本箱ヲ見恵

二十四日　〈止酒　月〉元老院議事［尾崎提出第三読会］　高橋金十郎帰自甲信

二十五日　〈火　止酒〉尽日読書

二十六日　〈少飲日本酒〉元老院議事［尾崎氏前会ノ次、否決ニ成］　会式ヲ致シ高橋父子、斉藤、岡田等被参

二十七日　〈十月　不晩酌〉高橋金十郎ト高島氏江参リ今般企思スル事ヲ易占ニ諮ル為也、得同人九五爻変

二十八日　〈不飲酒〉暁夢得一句、曰遠引金湯水　元老院議事　精養軒ニテ昼食ス　東京盲唖学校江廻ル

二十九日　元老院議事有之［奈良県設置之件］

三十日　〈日〉鈴木栄助、横尾東作、日蓮宗大教院江参ル　津田仙江立寄ル　与ニ盲唖学校ニ参ル　横尾勝右衛門来ル、石碑之題被頼　十河氏来

三十一日　元老院議事有之　盲唖学校江廻ル　米人ヲーレス油画ヲ観ル　切符代金十円小西信八江渡ス

十一月一日　雨　読姑妄聴之

二日　元老院議事有之［監獄則改正ノ件］　横尾勝右衛門来、為ニ揮毫ス読姑妄聴之

三日　逓信省記録課長　本郷弓町一丁目廿五番地　松浦良春

十時四十分ニ

御所江出ル、享膳如例　矢崎熊彦ヲ呼出シ金二円ヲ贈ル、今歳年始参内之時紙入ヲ拾ヒ被還ニツキ　夜ニ入リ九時ヨリ延遼館ニ参ル

四日　元老院議事有之［鳥尾提出案第二読会］

五日　〈十一月〉午後雨以故不赴徳川公邸流鏑馬会

六日　林昇君ト共ニ松浦良春宅ニ参ル　琳瑯閣ニ於テ明詩綜青門文鈔ヲ得ル

七日　朝書大久保麑山先生記念碑大字　元老院議事有之［鳥尾氏意見書］　一時後支那公使館ニ参ル、塩田、田辺、副島、長岡、佐野、宮嶋及余、其他英人一名

八日　斎藤氏、木平氏高橋大人ト共ニ浅艸富士山ヲ見ル、精養軒西洋へ廻ル　楊時庵集［六十四本］ヲ取入レル

九日　鳥尾君、堀江見訪　山川省ヨリ返書来ル　グリヒスノ書ヲ訳シ林様江上ル　猫ヲ本伝寺ニヤル

十日　支那公使江過日ノ礼ニ参ル　本屋江廻ル

十一日　元老院議事、鳥尾君提出之議案ヲ引リ取ル

十二日　加藤君演説ヲ承リニ一橋外旧開成学校江参ル

始來ル

〔上欄外〕

十三日　林昇君被参　其他二人来ル　林坂山算書題詞ヲ認メル
十四日
十五日
十六日　元老院出勤　鳥尾君ヲ訪フ
十七日　団子坂江菊ヲ見ニ参ル　竹鉢植ヲ買フ
十八日　元老院出勤
十九日　鳥尾君宅ニ参ル　留守ニ高知人山本正心、坂本直寛来ル　尾崎ト約アリ　相馬氏子供之祝ニ参ル
二十日　〈日〉午後御成道辺江参ル　分類字錦ヲ買ヲ約ス
二十一日　元老院出勤
二十二日　元老院議事、町村制第一読会
二十三日　新嘗祭　御断ヲ出ス
二十四日　元老院出勤、市制第一読会
二十五日　元老院出勤　薄葉摺通鑑ヲ得〔十二円五十銭〕
〈箕作秋坪碑文之礼ヲ菊地大麓ヨリ見贈〉
二十六日　榎本君ニ被招　支那徐承祖、傅雲龍、顧厚焜在座
二十七日　木平、柳沢二氏ト滝川看楓
二十八日　元老院出勤　紅葉館ニ於テ亜細亜協会〔頗ル盛会也〕
二十九日
三十日　元老院出勤　何君宅ニ見招

十二月

一日　支那新来傅雲龍、顧厚焜ヲ八丁堀支那料理店ニ招キ之ト同席ス〔伊達宗城、重野、宮島、小牧等在会〕
二日　元老院議事有之　小石川衛生会ニ出席ス、数件ヲ議決ス
三日　日本橋辺ニ往ク、吉川書舗ニ於テ書ヲ買フ
四日　〈日〉龍光寺ニ至リ田口江村ノ墓ヲ訪フ
五日　元老院出勤　詩ヲ浄写シ支那游歴官ニ送達ス　大橋富次初メテ来寓ス
六日　堀ノ内ニ参詣ス　衛生試験所ニ参ル
七日　元老院出勤　高知県人『高知県長岡郡介良村　沢本楠弥』〔名刺〕、『高知県長岡郡大埇村　武市安哉』〔名刺〕来ル、建白書ノコトニ付歎訴ヲ聞
八日　黄村日蝕詩ニ和ス(14)　重野氏狭山碑文　三島読仙経詩ヲ評シ且之ヲ和ス(15)

一　回教耶蘇孰軽軒、総将主宰作真尊、似非天道欽崇外、周孔敬天外、別天道範囲自開乾且闢坤

二　善悪祥殃説最真、人間万事有縁因、那曽聴見宇宙際、一有種桃□収粟□人

三＊人身生只活且前今、過去難追□□已死沈、未来亦是来生事、勿逐□狗輪回生滅心勿□

四　一由修行戒律復天真、一是顛狂逐妄身塵、須知生仏聖凡吊是差些子、同是眉横鼻竪三身具備人

五　人間富貴艸頭露、万恨千愁易悩襟、別闢百□交□□□展華厳法界観海蔵、養斯広大無辺心

六＊不塞各派不師宗祖心、互相争□鬩到争門競戸盛于今、区々藉此謀私利、利欲向頂

門施一針況更□頑然破戒箴
各派不師宗祖心、互相争鬩到于今、区々藉此謀私利、況更頑然破戒箴
妙悟須期透本根、勿迷名相致紛煩、万重烟霧排除尽、鷲岑方懸月一痕
此身非有亦非無、無悪善元来善亦悪、色即是空々即色、不過泯蕩破有又泯無

〔「六」よりここまで別紙〕

六〔貼紙により不明〕欲向頂門施一針
寛恕毋庸厳法箴

七＊妙悟□須期透本根、莫泥名相徒紛煩、万重雲霧排除尽、鷲嶺方懸月一痕
注疏脚□不堪　□排除　百除尽
妙悟須期透本根、莫泥名相徒紛煩、万重雲霧排除尽、鷲嶺方懸月一痕

八＊此身非有亦非無、無悪善色即是空空是色、不過泯有又泯無
福善　何独有患何無　禍悪無　□相形真亦無、通老　俗諺似嚮□　壮理　名□　□無為有有為無　解言好事　若無影時□不如無
此身非有亦非無、無悪相形善亦無、色即是空空是色　不過泯有又泯無

九＊禍福来禍在招　無門
百界千如皆　在吾、因縁果報　妙難名輩　豈言無、何人逃離得此真理、不用　説仏又議　仏儒与　区々分仏儒
禍福無門招在吾、因縁果報豈言無、何人逃得此真理、不用区々分仏儒

十＊畢竟六経芻狗陳、阿誰了徹法王真、或偏尊尚□□或偏罵、総是□□□分明□追風
□—□
授影人

十一易言太極即真神、此外元来無有神、若論追遠慎終意、神□亦是人人亦神

十二蕩然大道本来寛、豈別緇門与杏壇、勧懲之外無他事、議論□休走極端
不過勧善与懲悪　両家達観通為一

十三勧人作善是根株、枝葉分争□□異同　教為□　論竟迂、孔聖可名為大覚、之曰仏　瞿曇亦可謂之儒

十四議論皆従私利、人間生難得是公平、蕩然均在陶甄内、各自安排各自成

十五何須枯座□学癡禅、不用東西泥□一偏、要識聖賢真面目、百□□　難及処　時々刻々不忘欺天

九日　元老院へ出勤ス

十日〈土〉『高知県士族　当時宇和島寄留　阪義三』〔名刺〕芝区兼房町金房館　柳沢氏江二女嫁ノ祝ヲ贈ル

十一日〈日〉加藤弘之氏江高橋金十郎ト共ニ参リ私立大学ノ義賛成御呉候様申込

十二日　元老院議事有之

十三日　宮武南海［神田区駿河台北甲賀町三十番地］来リ国会瑕瑾ノ題辞ヲ被頼、写ノ物ヲ為ス（16）

十四日　野村靖氏江カステイラ壱箱、節用論三部ヲ贈ル　元老院出勤　三□宮司ヨリ薩摩煙烟ヲ見贈　長松君ニホアソナード建白書ヲ貸ス

十五日〈定〉英語女用文鑑題辞（17）

＊簡牘寧論和与英、祇応愛敬本真心情、詐欺鳥得弟兄合、忠信不難蛮貊行、
無　応須　真誠　寧　□他
簡牘寧論和与英、祇応愛敬本真情、詐欺鳥得弟兄合、忠信不難蛮貊行、
非是閨門基教化、争能俗進文明、春縫秋剪有力、握管染箋何可軽

十六日　元老院議事有之　戦時□□ヲ評シ秋月胤永ニ返ス

十七日〈土〉元老院議事有之　古文書［修史局編輯］ヲ買フ、三円七十銭

非是閨門基教化、争能邦国俗進文明、春縫秋剪用有余力、握管染箋何可軽
厄厨針線用　裁縫配膳□

十八日　〈日〉始而吾妻橋ヲ見ル　林昇様被参　会計課江頼ミ之書ヲ榎本大臣ニ贈ル　高津柏樹ニ金七円借ス

十九日　〈月〉風邪ニ而元老院江不参断出ス　榎本大臣ヨリ林昇ヲ官房江三十円ノ月給ニ而宜敷哉問合セ来ル、即刻充分ニ有之候旨答書ヲヤル

二十日

二十一日　元老院出勤ス　林昇様被参

二十二日　榎本大臣江自叙千字文ヲ寄贈ル

二十三日　元老院出勤、町村制第一読会　林昇様被参

一書拝呈仕候、陳者林昇之儀ニ付□ニ奉願置　何ト申上兼候ヘ共本人ヨリ左ノ通□—□今般

栃木県鹿沢学校

特待教員ト申ス名義ヲ以テ聘シ申度旨、保晃会副頭取安生順四郎ヨリ申来候由、就而者是迄□ニ御配慮奉煩候申来リ候由、因而是迄御配慮被下候ニ悖リ恐入候へとも、先ハ其方ノ聘ニ応シ度旨申出候、右ニ付過日□—□小生篤ト相考へ候ニ畢竟本人義ハ久敷田舎ニ居リ時事にも自然疎ク有之、且カクナル而者恐入候得共尊公様ハ到底御恩恵ヲ被為掛候へとも、行々其他同僚ニ対シ折合も如何ト或ハ懸念仕候、然るに本人ヨリ右ノ義申候上ハ其意ニ任せ候方可然ト存じ此鹿沢学校の聘ニ応し奉存候、依之□□且又本人之義ハ尊公様ヨリ小生ニ□—□ニ而格別之御恩典ヲ□賜候事故依之官房局御傭ハ御断リ申上候事ニ決し申候、不悪御聞取可被下候、手ノ裏ヲ返スガ如ク種々変化仕候義、何とも赤面之次第ニ候へとも偏に御寛赦可被下候、且又御序是迄之一方ならさる御恩恵ハ幾久敷記念仕候事ニ御座候　早々頓首

昨日陳止斎集、本屋ヨリ見セニ参ル

二十四日　元老院出勤、町村制第二読会

二十五日　〈日〉亀谷氏江参リ法華経大窾ヲ返ス　松波資之氏被参

二十六日　元老院出勤、町村制第二読会

〈保安条例出ツ〉

二十七日　早朝重野氏ニ参リ鹿児嶋宮祠碑文評ヲ乞フ　元老院出勤　森有礼氏新婚ノ招ニ会ス

二十八日　元老院出勤

二十九日　元老院出勤

三十日　御所、青山御所ニ歳末ノ御礼ニ参ル　本伝寺江参ル

三十一日

(18)

一　＊物元無浄非無垢、人或為仇或為友、不外吾心影響

元

盤銘□在除心　亦復作　発現　復現　自然　由　棄簫作鳴　獅　吼

物元無浄元無垢、人或為仇或為友、不外吾心影響、自然棄簫作鳴吼

二　＊入春漸覚日加長、杖藜懶問梅消息、只得支頤遊睡郷

一雨　□□　得□々　只倚南窓遊睡　睡為郷也酔為

入春漸覚日加長、一雨不来晴是常、杖藜懶問梅消息、只得支頤遊睡郷

三　＊梅花的皪照朝陽、小尾盆中独擅場、不用衝寒歩郊野、温暾坐占一春光

盆梅　簾幙重々寒□入　温暾　領得有□光　老我怕寒団

梅花的皪照朝陽、小尾盆中独擅場、不用衝寒歩郊野、温暾坐占一春光

四　＊夢中我得神通力、万里如飛乗鶴翼、或遇安期或羨門、忽遊極楽忽天国

夢中不識□何園　跨風□□乗　□□　飄興□　鶴翼　□□仙人時巒□　上下四方無不届　時　未　遊　浄土楽　極楽時　天国　忽

夢中我得神通力、万里如飛乗鶴翼、或遇安期或羨門、忽遊極楽忽天国

五　孔釈元来不異客、均期万事合乎中、中庸唯説不偏倚、中道何曽堕仮空

春鶯出谷調高　子思　只有

六　煩惱菩提無両心、衆生諸由来坐仏本同心、惟聖作狂狂作聖、千如百界総妙法斯心自由変化只

七＊仏陀非遠目前邇、誠□惣悟只自心含妙理、七宝大乗吾是足、車不求而至宝□□自得醍醐□味□尤之々有舌能分食甘旨

仏陀非天堂非聖賢不遠泥犂而伊適取

仏陀非遠目前邇、只悟自心含妙理、七宝大車吾是足、醍醐之味々尤旨

八＊只□従一念造三千、□□造福造殃皆我権、因縁果報甚明白

□造受作□作□入地□天善因所由爾能通随□□、天下何曾有偶然

只従一念造三千、造福造殃皆我権、因縁果報甚明白、天下何曾有偶然

自無所有元無□我眇然亦尺躯

九＊欲混死生均感敢将情欲逐形躯、千載神交両□陶靖節、一心尚友邵堯夫

俱喪思有無、随手時披擊攘集

十　晨起焚香方□静坐、万緑不作一心空、此時察識得中和境、欲与鬼神天地通未雁述

十一　処世言安即是安、接人謂為易那□曽難、不須自造羊腸険、故使千回百盤強度百折更千槃

十二　万物欣々以自私、隠然相助作他資、農工商賈仙□□儒仏、角力劇場詩酒棋戲場

十三　心

十四＊回首往時似雲烟、五十余七年取次遷、百般妄念已灰滅、業無富貴功名□

雖遇春風不復然

□□今已死灰何□復然

回首往時似雲烟、五十余年取次遷、百般妄念已灰滅　雖遇春風不復然

十五＊後□人議論□方隅、片言解為千様殊、試令孔釈同堂坐、曽有争心一点無区々葉々□葉善巧方便易地皆同儒釈、教相同談道

□本一□□□

曽有宗祖争心一点無

後人議論執方隅、片言解為千様殊、試令孔釈同堂坐、曽有争心一点無

十六＊底事文公与象山、争論太極者説皆偏、為欠虚心与平気、枉教後輩議先賢晦庵争心客気名□此可惜講談□□

底事文公与象山、争論太極説皆偏、為欠虚心与平気、枉教後輩議先賢

十七＊石待磨兮玉待琢、待何物事□一心持□物覚、知能行矣行而知、学復思兮思復学一心不覚誰能行先□□行徒思無益不如

石待磨兮玉待琢、待何物事一心覚、知而行矣行而知、学復思兮思復学

十八＊飲水有源堪溯尋、昭然天道可崇欽、知之非自外而得□□之載豈以至上天不達

飲水有源堪溯尋、昭然天道可崇欽、知之非自外而得、我性元来有此心本□

十九＊世似逝川流到今、□□□斯中豪傑幾銷沈、独有古書存不朽、昭々不昧聖賢心英雄聖賢書著書伝

世似逝川流到今、斯中豪傑幾銷沈、独有古書存不朽、昭々不昧聖賢心

二十＊善心一起是祥幾、□早被鬼神窺知微厥微、冥賞隠然已冥許、如形有影必相依起一蒙定□蒙

十三＊天下至尊妙者斯心、天下至妙変者斯心、更又有進于此者、万世不朽者斯心天下尊天下至霊者斯心

天下至尊者斯心、天下至妙者斯心、更又有進于此者、万世不朽者斯心

注

（1）「書川口君文後」（『敬宇文集』巻十六）か。
（2）「新選三体詩序」（『敬宇文集』巻十四）か。
（3）「三註合記四書叙」（『敬宇文集』巻十四）か。
（4）「大八洲游記序」（『敬宇文集』巻十四）か。
（5）「楠公訣子図」（『敬宇詩集』下巻）。
（6）「鹿児島神宮碑」（『敬宇文集』巻十六）か。
（7）「渡辺碩也文稿序」（『敬宇文集』巻十五）か。
（8）「姚子梁君招同中東諸名士。飲新橋千歳楼。賦謝」（『敬宇詩集』巻下）はこの時の詩作であろう。
（9）「土氏論理学序」（『敬宇文集』巻十五）か。
（10）「秋坪箕作君墓銘」（『敬宇文集』巻十六）か。
（11）「賀大村桐陰翁」（『敬宇詩集』下巻）。
（12）「賀山内光宣六十寿」（『敬宇詩集』下巻）。
（13）「山本央人碑文」（『敬宇文集』巻十六）か。
（14）「日蝕行和向山黄村韻」（『敬宇詩集』下巻）か。
（15）「偶感三島中洲読仏経得漫言十五首韻」（『敬宇詩集』下巻）。
（16）「国会瑕瑾題辞」（『敬宇詩集』下巻）か。
（17）「英語女用文鑑題辞」（『敬宇詩集』下巻）。
（18）「任意吟。用三島中洲君韻」（『敬宇詩集』下巻）。

**明治二十一年日記**［五月ヨリ五十五年一月トナル］

千八百八十八年

元老院議官従四位文学博士中村正直

十方来人皆対面　仏身円満無背相

a work before worth

...behind 474

「中村正直殿　執事　水野遵」〔封筒〕

「敬宇中先生　執事　金森竜　弟子」〔封筒〕

「野人竜再拝呈書　先生門下曩不顧浅劣因水野某兄有戚敢上所為書経砕批一篇敢請覧観甚涜冒清聞而　先生猶容憐勧奨野人感喜之大天地無比焉也而后知　先生愈高而野人愈拙且俾誠知野人所為労而無功欣愧交来遂知往者非而来者可改　先生誨野人多矣野人踏此負慢之過而不知顧反者抑有以夫孔聖之為道兼天兼地其美其善六洲古今無復能及焉者而今也衰頽如此何也註伝訓解大抵指無形為有形塞天源濁人波終大註誤此后人以径（ママ）幾百千載而不張也若或謂不然則孔聖道之不是歟何学斯道者其行亦必正而為蘇教所嗤笑其言未深而為仏氏所屈哉何斯道之善且美而衰頽如此哉苟有識者而能忍袖手傍観不一思繹其本一咄拒其末乎若或講論我道以前日為既已尽矣至矣則我道亦果不若蘇与仏歟果不若則其衰頽不鳴又何足恠哉漢人有言甚高（カ）解而更張之乃可皷也是野人之所以不量力以陥此尤也天下若微　先生有誰憫以拯野人野人既遥受先生之誨悔昨改今将以索　先生所謂外有学問進益者而已爾後誇向人敢称先生之弟子　先生許否縦令　先生而無許野人之心既為弟子乃薄進献苟辺之麁産謝辱覧観并表束脩之寸意笑納幸甚欲謝涜間反復涜間再拝

明治廿一年三月日（ママ）　金森竜敬白

敬宇中村先生執事　」

「拝啓　益御清祥奉賀候、過般書経砕批之儀ニ御煩労奉願候処、早速御教示ニ預被下奉謝候、□乍恐金森ヨリ別封并味噌樽一箇到着候間右御転送候、御置留当ヲ賜ハ同人之幸不過之ト奉存候　頓首　三日

水野遵

中邨敬宇先生侍史

再申　尾張味噌ハ大豆斗ニ而製シ候モノニ付少々渋味有之候間此段予メ申上置候　」

明治二十一年

一日　朝拝　大皇后様拝賀ニ参ル

二日　都下諸家江年賀ニ参ル

曩者蒙賜

先公著書五種并年譜一冊、曷勝感荷、謹当唯□□寘諸坐右、時々拝読以永無忘厚誼、不知所謝、今奉呈安井塩谷両氏二種書、□二氏皆僕昔□同僚也、若得与□高覧貴邦高学士大夫□之覧観、泉下之喜如何也、書不尽言伏乞諒察

〈We should not be angry at trifles.〉

三日　木村芥舟、大槻東陽、総生寛、信夫粲江賀箋ヲ出ス

四日　天賜可拝受苦口薬有霊戒慎生恐懼怠惰得警醒安楽令人死憂患令人生願守謙六四密雲雨沢行

右有感

五日　読詩頌　新年宴会

六日　元老院江始而出勤　鹿鳴館新年宴会

七日　〈土〉

八日　〈日〉跡見学校開業校式参ル
九日　元老院江出勤
十日
十一日
十二日
十三日　元老院議事始出勤　町村制ニ付
十四日　〈一ページ〉元老院出勤　ベーカア氏ト読会始ル
十五日　〈日〉元老院出勤　浅艸辺ニ廻ル　李白集ヲ得タリ
十六日　同上
十七日　元老院出勤　大久保忠恕被参　日光山下江地所ヲ買フヲ約ス
十八日　元老院出勤
十九日　〈二ページ〉元老院出勤
吾嘗聞之人須有三愛、一愛其妻一愛其職業一愛其郷里、太田錦城曰世因三房而治矣一曰女房一曰鉄炮［音似房］一曰仏法［音似房］、敬宇曰脩身斉家治富家之要不外乎是福祉安寧之道備乎是矣
二十日　元老院出勤　明日衛生会ニ断リヲ出ス
二十一日　〈三ページ〉元老院出勤
二十二日　七十古来稀、此言始少陵、吾今五十七、餘生如残灯、富貴黄粱夢、詩書白首朋、憶哉参也魯、終身守戦兢
二十三日　〈月〉元老院出勤
二十四日　□—□　渡辺八郎ノ為ニ揮毫ス
二十五日　元老院出勤
二十六日　〈四ページ〉孟典読会　元老院出勤
二十七日　元老院今日議事有之ニ付風邪ニ付不参断ヲ出ス
二十八日　〈五ページ〉
二十九日　北沢正誠被参　市川弥三郎家ニ帰ル
三十日　孝明天皇祭不参断ヲ元老院ヨリ出ス　和三島氏二十首（1）
三十一日　元老院確定議決会出勤、町村制済ム　木平氏ト共ニ芝三縁亭ニ参リ黄村ヲ尋ヌ、東坡生日ナリトテ詩会ヲ催サレ、稲津南洋、杉浦梅譚モ在坐
二月一日　元老院出勤　小雪
二日　〈六ページ〉『大隈伯内閣に入る』〔切抜〕
三日　元老院出勤　来ル七日年給受取ルコト
四日　〈七ページ〉午後雪降
五日　〈日〉
六日　元老院出勤、市制第二読会　山梨農業雑誌社々員　清水初太郎
七日　元老院出勤、市制第三読会済
神田区新銀町三十三番地　渡部勝之助　十五日迫
茨城県豊田郡水街道駅　渡辺武助
『千葉県下総国印旛郡佐倉新町八十四番地　友金勝蔵』校生徒〔名刺〕
恵美し良よ己礼も大和乃おミなめし□とへつと免の身しやとても古ゝ路も志れぬ阿めりかにぬれて祢よとハ阿しやい□よ无
八日　元老院出勤、市制第三読会済
九日　〈八ページ〉大沼沈山氏江参リ詩稿ノ評ヲ頼ム　琳瑯閣ニ於テ四書繹、チエンバア英百科全書ヲ得タリ
十日　元老院江出勤　西翁八十賀詩ヲ浄書シ末松江郵送ス
十一日　〈九ページ〉御所ニ参ル　紀元節ニ付テ也　小野湖山江返書ヲ出ス
十二日　〈日〉学士会院ニ出ル、小中村氏、杉亨二演説アリ　午前林茂淳来リ吾（ハカ）想像ノ楽ノ演説ヲ筆記ス

十三日　元老院出勤　今朝東隣ノ少シ距離ニ出火アリ、見舞之人ニ御礼状ヲ出ス　□国利病書ヲ鴈金ヨリ見セ来ル　小野湖山江絶句三十五首出ス

十四日　友金氏ノ為ニ書ヲ作ル　関藤十郎被参

十五日　元老院江出勤、菓子税改正之件第一読会

十六日　元老院出勤、電信切手ノ件　フルベツキ氏ヨリ英暦書ヲ届ケ来ル

〈鴈金ヨリ九経全解ヲ取寄ル〉

十七日　元老院出勤、菓子税則ノ件

十八日　〈土〉

十九日　〈日〉午後二時弘道会ニ於て徳福合一論ヲ演説ス

二十日　元老院出勤、始メテ甲部ニウツル　哲学会ニ参ル［演説ハ来月ニ延スコトニナル］

二十一日　千葉立造来ル

二十二日　元老院出勤

二十三日　〈十ヘ〉木平、柳沢、木村、神津、吾妻、伴、楊、金十郎八名ヲ招キ同人社ノ義将来ノ事ヲ相談ス

今日午後四時ヨリ星ケ岡茶寮ニ育英会新年宴会可出席申置候処、前文之事俄ニ起ルニ因リ断リヲヤル

二十四日　風邪ニ付元老院江不参断ヲ出ス　何礼之氏ヨリ英訳仏経ヲ被貸

〈賦小木山石詩為千葉氏〉

二十五日　〈土　十一ヘ〉孫点、陶大均来［生徒ヲ頼ミ度件ニ付］

二十六日　〈日〉辰巳力弥ヲ支那公使館ニ使セシム

二十七日　〈月〉風邪ニ付元老院江不参断ヲ出ス　是夜社友会議　陶大均来、生徒壱人ヲ愈ニ入学ヲ頼マル

二十八日　朝柳沢氏、神津氏両人、昨夜ノ決議を申来ル　八島氏来ル

佐野理八代理　岩代国伊達郡郡山戸田村　八島成正

二十九日　元老院出勤　飯田央ヨリ摸倣哲学ヲ被贈　夜ニ入ル、伴直之助被参

三月

一日　〈十一ヘ〉揮毫ス

二日　風邪ニ付元老院江不参断ヲ出ス　哲学字彙編輯委員選挙人ニ当選ニ相成旨、沢柳政太郎、上田万年ヨリ申来ル

大和国宇智郡小島村栄山寺住職　照山梅岷

三日　〈土〉花房義質ニ弔問ノ書簡ヲ出ス［二月二十五日実母死去ノ報アリシニ由ル］

四日　野口之布来

〈九日　午後四時紅葉館　知事招キ〉

五日　風邪ニ付元老院不参届ヲ出ス

支那徐致遠、陶大均携二張文成一始至、束脩四円、月□二十円　幹事一円、月謝月棒屋費七円

正太郎殿ノ遺稿序文催促ニ来ル　永田町一丁目十九番地　横山安克

五十嵐義栄江手紙ヲ出ス　彝ノ事ニツキ

〈十三日四時□　冨士見軒同窓会、坪井次郎北堂招待〉

六日　下野国上都賀郡日光町千八百四十一番字蓮花石平林

山林

一　平林貳段三畝廿三歩

地価金四十七銭五厘

此百分ノ二ヶ半金壱銭貳厘　地租

右ノ代価金三百円并登記料金四円

大久保忠恕江渡ス

〈十八日　二峯招キ中村楼〉
〈二十一日火曜日カ、哲学会〉
七日　元老院江風邪不参断リ并九日宴会不参ヲ断ル
九日　〈三月〉徳国帝殂
十日　〈十三㋑〉鳥尾君見訪　今日前々ノ集会引続キ有之由ニテ私立大学ハ止メルコトヲ申出ス　ベーカアの為ニ川勝氏ニ手紙ヲ認ム
十一日　学士会院江断ヲ出ス　野口之布来ル　渋沢氏ヨリ書ヲ被頼
十二日　渋沢氏江参ル　晩間木平、柳沢、木村、伴四氏来ル　元老院出勤
［風邪全快ニツキ］
張文成ノ室ヲ見ニ行ク
十三日　渋沢氏江参ル　所言見聴来ル　二十五日午後二時同氏方江可参コトヲ約スル　仏参□ニ行ク
十四日　元老院出勤　楠本氏、何礼之氏江参ル　宮内広ヲ訪フ
十五日　〈十四㋑〉午後三時ヨリ衛生小集会江参ル
十六日　元老院出勤　北沢正誠被参　盲人ママ賛成之儀被申込　茨城県人箕輪某老人附添来見、高島氏江転書ス
十七日　〈十五㋑　土〉
十八日　〈日〉蒲田江看梅ニ参ル
〈来ル二十日春季祭九時四時分ママ参内〉
十九日　元老院出勤　明日参内御断リヲ出ス
二十日
二十一日　元老院出勤
二十二日　張文成ト共ニ教育博物館ヲ観ル
二十三日　〈金〉□元老院出勤　北沢氏来　秀英舎江廻ル
二十四日　〈土〉伊東本支被参　演説集校合ニ従事ス
二十五日　〈日〉同和学校転校式ニ参ル　揮毫ス　渋沢氏論語講ニ参ル　藤野氏江香奠ヲ為持ツカハス
二十六日　〈月〉元老院議事有之　宮本氏招キ上野八百膳ニ参ル　二階下ニ而社友来会ス
二十七日　大淵氏ノ為ニ前赤壁賦ヲ書ス　孫点氏来ル、楊春林共ニ談話ス
一斎先生□□ノ問合　四谷舟町六十五番地　伏見釛之助
二十八日　元老院江出勤　小松彰氏送葬ニ吉祥寺江参ル
二十九日　〈十六㋑〉伊東本支ヨリ鳥二羽被贈
三十日　元老院江出勤
三十一日　〈土〉木平氏ヲ以テ幹事ト為シ、杉山氏事務掛
四月
一日　〈日〉
二日　元老院出勤　演説集百部受取　鳥ヲ放ス　浅艸書肆江廻ル
三日　神武天皇祭
御所江参ル　於陸、於綾、於芳、徳胤来ル　高島君見訪
四日　市区改正案第二読会
〔破損〕
五日　〈十七㋑〉加藤多仲ヨリソノ父碑銘ノ石榻ヲ贈ラル
六日　元老院前会之続　調査委員ニ定ル
七日　芝三縁亭ニ於テ午後同人社同窓親睦会有之
同人社雅集三縁亭
大好春光桜放天、同人雅社集群賢
八日　高島氏神奈川宴会ニ参ル

九日　〈月〉元老院出勤　午後亜細亜協会江参ル
十日　〈火〉
十一日　〈水〉元老院出勤　アシヤ協会親睦会ニ紅葉館江参ル
十二日　ナツプ氏見訪
Agnustic= one who says he does not know—as opposed to one who denies = or to one who pretends to know all—〔別紙〕
十三日　元老院出勤　那珂氏来ル
十四日　〈十八ベ〉風邪ニ而養生ヲツトム
十五日　風邪不接客　是日上野景範氏葬式、余不能会
十六日　元老院江断ヲ出ス
十七日
十八日　元老院江断ヲ出ス
十九日　〈ベ〉大倉氏江左之通リ
一翰拝呈仕候、益〻御壮勇被成御起居奉賀候、陳者過日同人敝社幹事高橋金十郎江御逢被下、私立大学設立之義御賛成可被下様難有御座候、然るに右ハ餘リ大事業ニ付是迄之私学を拡張仕候位ニ引縮メ申候而□社員ヲ募リ候事ニ相定メ申候、固リ右ニ而御賛被下候様奉願候、小生参堂拝顔候上□—□可申上候処風邪ニ付幹事両人両人同人社幹事両人差□出申候、御多用之中恐入候ヘトモ御逢被下、両人へ御示教被下度奉願上候　早々頓首
渋沢氏江左ノ通リ
益〻御起居清穆奉賀候、過日ハ敝社私学校之事ニ付御賛成ヲ御願上候処御承諾被下難有御座候、因而敝社幹事両人木平譲、高橋金十郎右之事件ニ付差出申候、両人口上ヨリ御聞取被下、尚御示教被下候様奉祈上候、早々頓首
高島氏江左ノ通リ
拝啓益御壮勇被成御起居奉賀候、陳者過日来私学拡張□事而御配慮奉願候事件ニ付幹事二人差出申候、一人ハ小生同人社設立以来
拝啓　過日来御配慮ヲ願上候件ニ付幹事二人差出申候、老人之方ハ小生静岡ニ居リ又ハ東京江帰リ候節ヨリ私学設立以来万事相談いたし候者ニ有之候、宜敷御示教可被下候
二十日　元老院出勤　宮内省江観桜花会被為召御礼罷出　上野景範氏江悔ミニ参ル
二十一日　〈土　二十ベ〉ベーカアニ十円謝金ヲ贈ル　佐々木儀三郎ヨリ金百円返ス
二十二日　〈日〉林彦兵衛来　及川陳平来
二十三日　元老院江出勤
二十四日
二十五日　元老院出勤
二十六日　朝世良太一、川田、三島江参ル　井田譲見訪
二十七日　元老院出勤　斯文会江出ル
廿八日　〈土　一ベ〉小石川区衛生会江出ル
廿九日　〈日〉大橋素六郎来ル　月明会摺物出来来ル
三十日　元老院出勤
是日枢密院官制発布ニナリ黒田氏総理大臣ニ任セラレ伊藤氏枢密院議長ニ任ゼラル
五月一日　明六社江参ル　西、津田、外山等来ル　高島嘉右衛門被参　反物ヲ被贈
二日　元老院江出勤
三日

四日　元老院議事有之　ベーカア娶婦
五日　〈土〉元老院議事有之　飯倉小学ニ演説ニ参ル　鍋島直彬君招キ
六日　〈日〉杉田苞行参リ、伊集院議官江壱封紹介書ヲ被頼
一簡拝呈仕候、益ゝ御壮勇被成御起居奉抃賀候、陳者杉田苞行ト申ス者、先年小生私□之取締ヲ致シ候者ニ御座候、拝謁之上御願申上度事有之由ニ而小生紹介之義被相托候、何卒御逢可被下候様奉願候也　早々頓首
〈是日渋沢氏園游会ニ参ル〉
七日　元老院江出勤ス、議事有之
八日
九日　元老院江出勤、議事有之　大木議長園遊会ニ参ル
十日　〈二ヘ〉
十一日　元老院江出勤、議事有之
十二日　〈三ヘ〉浜村大澥被参、慊堂文稿三冊ヲ被貸
十三日　大木議長及大隈氏江過日被招候禮ニ参ル
〈十月九日朝死〉
十四日　〈月〉不快ニ付元老院不参断ヲ出ス
十五日　〈火〉
十六日　元老院出勤
十七日　〈四ヘ〉
十八日　元老院江不快ニ付断ヲ出ス
十九日　〈五ヘ〉高橋珊瑚閣江額ヲ認メニ参ル
二十日　鳥尾君ヲ訪フ　柳沢氏江参ル　盲人教育会　金弐円渡ス
二十一日　元老院出勤　ベーカー江マルリーヂノ祝物ヲ贈ル
二十二日　両毛鉄道会社開業ニ被招書状今朝届キ間ニ合不申、遺憾千万也

氷川社江額ヲ見ニ参ル
二十三日　所労断ヲ元老院江出ス
二十四日　〈六ヘ〉ベ所労断ヲ元老院江出ス
二十五日
二十六日　〈土　七ヘ〉黒田大臣相撲被招　月明会［三十人バカリ、支那人四名被参、頗ル盛也］
二十七日　〈日〉
二十八日　〈月〉元老院出勤　早朝佐々城、柳沢二氏参リ、教員等退職人ヲ定ム
二十九日　元老院議事有之
三十日
三十一日　元老院議事有之［醤油税則下附原案ニ復スル説ヲ提出ス、賛成綿貫、楠本、山口、野村、林、大迫、細川、鳥尾、本田］　午後一時吉田清成君邸江被招相撲ヲ観ル
［「明治廿一年五月七日文部省ニ於テ博士ノ学位授与ニ方リ文部大臣演示ノ大意」印刷物］
六月一日　林茂淳来　速記ヲ以テ演説ヲ記サシム
二日　〈九ヘ〉土〉元老院議事有之　賛成ヲ得、問題ニ決ス　○小石川衛生会ニ参リ演説マテ矢田部氏ノ招ニテ植物園ニ参ル
三日
四日　招魂碑文ヲ草ス
五日　元老院議事、醤油税則第一条ニ聯帯シタ第廿六条ノコトニ付賛成ヲ得テ余説成リ立ツ
六日

七日　元老院五百七十二号第三読会終　文部省ニ出頭致シ文学博士ノ学位ヲ授ケラル

八日　仏参ニ参ル　梅津恭太郎［伊左早ヨリ申込］来見

九日　〈六月　十ハ〉元老院出勤、測量標之義ニ付　同人社ニ出テ改革後ノ演説ヲ為ス、第一回也

生来淡泊似来其、豈有動人廊廟姿、千里感君如故旧、深情寓在一篇詩

十日　〈日〉学士会院ニ参ル

十一日　博士会議ニ参ル

十二日　元老院市制検視会

十三日　午後星岡茶寮江参ル、井田譲氏之招　朝ナップ氏ヲ久家氏ト共ニ訪フ

梅檀ハ二葉ヨリ香バシ、晴天ノ時ニハ東方ニ一道ノ発光ヲ見

新井白石ノ少時水ヲ浴シテ手習ヲスルコト　井部香山ノ東江戸ニ書生タリシ時、芝三縁生増上寺ノ門ヲ過レトモソノ中ヘ入リテ見シコトナシ　僕ハ十六歳ノ□時昌平学問所ニ入リ、ソレヨリ九年居リタリ　勉強ト申スホドニハ非レドモ、書生部屋ノ後ヨリ見ヘタル鰻鱺店「シ井ノ木」トイヘルモノアリ、然レドモツヒニ一度モソノ店ニ入リタルコトナシ

孔子ノ所謂食無求、飽居無求安、敏乎事而慎事、就有道而正、可謂好学也、己決シテ□巻□ヲ用フルニ及バスト

九日演説［「梅檀」より別紙］

十四日　元老院議事有之　紅葉館ニ参ル

無刑録　拾八冊　二十一年六月十四日　中村正直［付箋］

十五日　元老院議事有之

十六日　〈土　十一ハ〉元老院議事有之

十七日　〈日〉楓井純等見訪

十八日　〈月　十二ハ〉

十九日　所労ニ付元老院江不参断ヲ出ス

〈横尾東作、津田仙江使ヲヤル〉

五六九号郵便法読会ニ於て全部付託再調査委員

三浦、楠本、加藤、尾崎、井田、山口、石井

二十日

二十一日　〈木〉元老院江参ル　高橋氏江立寄ル　池田伴庚来［和英］答書原理ヲ見贈

早朝佐々木本支被参

二十二日　〈金　十三ハ〉伊東本支被参　及川氏来

二十三日　元老院議事有之　月明会ヲ此日ニ繰リ上ル、幻灯会アリ、ソノ前ニ演説会アリ、草間、吾妻

二十四日

二十五日　〈十四ハ〉古堀竹市、佐々城本支来　艸横山正太郎君遺稿序

二十六日　〈火〉元老院出勤［測量標第二読会］　柳原君ニ謁シ踈濶ヲ謝ス

六月廿九日午前第九時

第五七五号議案意匠

第五七六号議案特許　第一読会

二十七日　〈水〉午後伊達宗基君邸ニ佐々城氏ト共ニ参リ王羲之書ヲ観ル

瀬成田長門作益清亮周旋被致

二十八日　〈木〉

二十九日　〈金〉元老院出勤［五七五、五七六］第一読会

三十日　元老院出勤、測量標議事

七月一日　〈日〉

二日　〈月〉元老院出勤［測量標三読会迫スム］　ベーカア、木平、柳沢来

三日　元老院出勤［五六七読会スム］
四日
五日　元老院出勤
六日　〈十五㊋〉太田才二郎来、錦城文録等三冊ヲ貸ス
七日　〈土〉元老院出勤　バックル文明史金三円　淮南鴻烈解金三十五銭卒業生徒ヨリ冨士見軒晩餐ニ請待セラル
七日　〈日〉（ママ）
一書拝呈仕候、益ゝ御壮勇被成御起居奉抃賀候、陳者　杉山政真
右者小生学校ヲ久敷教授いたし居り候処、此度小生校改革ヲ致し不得已解職いたし候者ニ御座候、本人ニ聊ノ過失あるに非す、又学術上ニ不満足の事有之ニ非す、全ク党派ノ別しより目今閑散ニ相成候者ニ御座候、右之者差出し候間御逢被下、猶本人ヨリ申上候義も候ハヽ御聞取可被下候、右申上度　早々頓首
大内青巒様　中村正直
八日　〈日〉
九日　〈月〉元老院議事
十日　元老院出勤
十一日
十二日　元老院出勤　同人社卒業生徒江証書ヲ渡ス
十三日　〈十六㊋〉曝書ヲ始ム
十四日　元老院江出勤　大木、大久保二君ノ病ヲ訪フ　秋月胤永妻没スルニ付吊問ニ参ル、金一円香料ヲ贈ル　ベーカー氏江八円贈ル、十六回来ルガ為也
十五日　〈日〉
十六日　元老院出勤
十七日　元老院出勤、議事有之
十八日　〈磐梯山噴火ス〉
十九日　七月二十日午前第九時、第五六九号議案郵便法第二読会開キ
二十日　今日迫不参之義断リ置
二十一日　元老院出勤
二十二日　〈日〉
二十三日　元老院出勤
二十四日　同上
二十五日　同上
二十六日　同上　太田才次郎見参
一翰拝呈仕候、酷暑難堪候処御壮勇被成御起居奉抃賀候、陳者木平長兵衛ト申ス者、元来小石川区質屋職旧家ニ御座候処、一昨年ヨリ尾張町ニ商店洋絨類商店ヲ出し申候□□□□小生門人ニ有之候、律義ナル人物ニ御座候、手堅キ貴君ハ商業上孝□何卒貴君ヨリ御教訓を蒙り度段、小生紹介ノ義被相頼依之此段申上度恐入御閑暇中ニ御多用中御迷惑とハ存候へとも此段願上候也
二十七日　元老院出勤
二十八日　〈土〉又原氏ニ托しサキニ印ヲ拾（ヒロ）ヒ呉レ候石内弥平太江書三枚ヲ礼ニ送ル［ソノ請書ハ六月二十四日ト日附アリ］
二十九日
三十日
三十一日
八月一日　秋月胤永、池田伴庚被参　大久保一翁君薨去被致候ニ付悔ミニ参ル　玉岩堂（カ）取入レル
二日　八月二日午前第九時、第五八三号議案測量標市制町村制検視会五七三

三日
四日　元老院出勤　大久保一翁殿葬式ニ参ル
五日　朝顔ヲ見ニ木平ト共ニ参ル
六日　杉山氏、三村日修僧正被参　弊社江寄附金二十五円被贈
一翰拝呈仕候、酷暑難堪候処益〻壮勇被為御起居奉抃賀候、陳者杉山政真ト申ス者敝社之教員久敷致し居リ候処、内国通運会社役員相成度志願ニ御座候而、此程陸軍参謀本部松井利行ヨリ運輸部朝尾康太郎へ申込有之候由ニ御座候、何卒此事早ク成就候様御声掛ケ被成下度於小生奉願上候、右得御意度如斯御座候　早々頓首　中村正直
真中忠直様
追而本人江御一接被成下度時不納ニ候へとも此義も奉願候迚
七日　〈八月〉元老院江参ル、給料受取ル
［六日ノコト］杉山政真ノ為ニ真中氏江書ヲ作ル　木平、柳沢ノ為ニ高島氏江書ヲ作ル
八日　渋沢、大倉両氏江書ヲ作リ木平、柳沢へ渡ス
九日　元老院出勤、意見書読会
十日
十一日
十二日　〈日〉
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日　市口某被参
十九日　〈日〉
二十日
二十一日
二十二日
二十三日　浅艸観音へ参詣ス　渋沢氏ヨリ反物見贈
二十四日　西新井大師へ参詣ス
二十五日　〈土〉

「　府下浅草区向柳原町二丁目拾二番地寄留
静岡県士族
杉山政真
安政三辰年正月十一日生
一明治七年四月旧浜松県学校訓導拝命ス
一同九年十一月職ヲ辞シ出京ス
一同十年二月ヨリ数学専門学同□学校（所在府下浅草区向柳原町二丁目拾二番地）ヲ設立ス
一同十四年三月ヨリ同人社（所在府下小石川区江戸川町拾八番地）ノ依托ニ応シ同校数学科教授ヲ担当ス
一同十七年九月同校事務掛ヲ依托サレ教授ト兼勤ス
一同廿一年五月病ニ依リ職ヲ辞ス
明治廿一年七月　右　杉山政真　印
陸軍参謀本部松井利行ヨリ内国通運会社運輸部ニ朝尾康太郎へ申置

浅草区橋場町三拾四番地
橋場渡し場より半町程午前右側　　真中忠直□　」
二十六日　〈日〉
二十七日　芝日蔭町江参ル　詩経示蒙句解ヲ得タリ
二十八日　高橋博親君ト共ニ真光寺ニ参ル
二十九日　午後大雨　佐野理八江丹治梅吉ノ碑文ヲヤル
三十日　木平氏参ル　大倉氏江金百円寄附金受取書ニ調印ス　一吉ヨリ紙面参ル、廿四年卒業ノコトヲ承ル
三十一日　午前大風［今日二百十日ナリ］、五時頃快晴ス
九月
一日　鴈金屋ニ而秉焔談ヲ買入ル　関城和尚ニ詩并伊東七郎衛ノ行状ヲ渡ス
二日　〈日〉
三日　池上日薩師寂サレシヲ以テ参詣シ香奠弐円ヲ呈ス、御鉄、御高参ル
四日　池田伴庚来
五日　〈此頃高島氏来〉
六日　大作延寿郎来［本郷駒込西片町十番地にノ二十一号］
七日　東条氏来　鈴木道隆、暇乞ニ来ル　信夫氏ヲ訪フ、不逢　藤堂様へ参ル
八日　大村神社記念碑文ヲ作ル
九日　〈日〉東京学士会院ニ参リ報償論ヲ演説ス
十日　〈九月〉
十一日　元老院ニ出勤［休職後初事］
十二日　報償論稿ヲ秀英舎工場江持参、刷印ヲアツラヘル　風雨時作時止
十三日　元老院出勤
十四日　小林山郷［和歌山ノ医、一吉添書］来ル
十五日　元老院出勤　目鏡ヲトリカヘル　徐致遠、陳榮被参
十六日　〈日曜〉
十七日　張文成、団扇ヲ贈ラル
〈十八日九時五七九号第二読会〉
十八日　元老院議事有之［航路標識条例］　秀英舎江廻ル
十九日　日修師ヲ訪フ、廿五円ヲ預ケル、実ハ返戻スノ□□訳ナリ　報償論［五百部活板出来上ル］
二十日　暁　張文成江敬宇文小本二十部、中本十二部ヲ贈ル　元老院議事出勤　東条世三娶菊（ママ）氏二女、来告　其母、携子婦来見、因為賀贈綿
二十一日　月明会　木平、柳沢、長谷川次因、渋谷氏、大倉将英、吾妻被参
〈廿五日九時五八六号陸軍治罪法改正第二読会〉
二十二日　今日秋季祭御断リヲ昨日頼置
「君子ト淑女」（ママ）ニ題スル文ヲ作ル　神津氏ニ書ヲ贈ル
二十三日　武居（ママ）ヨリ麦酒六罎見贈　中沢丈右衛門来ル　三沢氏来ル
二十四日　元老院へ出勤
二十五日　風邪ニ付断ヲ出ス、二十九日迫
〈十月一日午前第九時、特許条例第五七六号議案第二読会続〉
二十六日
二十七日　必当作家伝故先零々
二十八日　細々做起
千葉院様伝最為要緊
御清（セイ）或御清（キヨ）
十月六日第五八七号［清国朝鮮云々］第二読会終ル後号外四十三号議案意見書第二読会続

商法ノコトニ付内閣委員　控訴院評定官　長谷川喬
法制局参事官　本尾敬三郎

十月一日
二日
三日
四日
五日　不飲酒
六日　不飲酒
七日　不飲酒
八日　不飲酒　中山孝麿君以佳魚為贈
九日　不飲酒　ワイコッフ氏ヘ金十元［アシヤチックソサイテイ］為持遣ス
都是宜 This is the best［文又武、武又文］
十日
十一日　〈十二日五七六号特許条例第三読会ツヾキ〉
十五日第五九三号貨幣条例追加第一読会　全部付托調査委員、神田、井田、
由利、大鳥、柳
十五日　今日ヨリ二十日迄養生不参之義、元老院江届ル
〈十八日第五八九号議案商法第一読会〉
〈十月廿二日号外第四十五号保安条例第一読会　十八日来ル〉
〈今十八日商法第一読会之末ニ当リ意匠商標両条例ヲ特許条例再修正委員
ニ付托候ニ付　十八日来ル〉
二十二日　病後始メテ出勤ス　元老院会議有之
十月廿三日第五七五号議案意匠
八号議案商標第二読会　廿二日達シ有之
十月三十日　三浦氏ヨリ慊堂文集五冊ヲ借ル

十月三十一日
十一月一日
二日
三日　天長節江参内可仕候処風邪ニ而去ル一日御断ヲ出ス
岡山県上道郡平井村清野峰造、仙人之問ニ答フ
四日
五日　元老院江出勤
〈五日鉄道云々之議事有之〉
六日
七日　元老院江給料受取ニ参ル
八日　元老院議事有之［傍聴一件］之処不快ニ付断　カクラン夫妻見訪
九日　於鉄、於高、カクラン氏江参ル
十日　元老院江江出勤　元同人社生徒医士　鈴木初吉　此人ニ逢フ
十一日　〈日〉浅艸辺ニ参ル　書肆ヲ閲ス
十二日　所労ニ付断ヲ元老院江出ス
十三日　茨城県西葛飾郡川妻村七番地　小野寺七十郎
野口ヤスノスケ
十四日
十五日
十六日　元老院江出勤、郡制府県制第二読会
十七日　元老院出勤　矢田部強一郎来
『豊国神社宮司　正五位子爵日野西光善』「豊公墳墓修繕御賛成御寄附金
御礼」［名刺］
十八日　矢田部強一郎、依田来（ママ）　揮毫ス

十九日
二十日　元老院出勤、十六日ノ続キ　会議有之
二十一日　井田譲氏被参
二十二日　元老院出勤、二十日之続キ
二十三日　仁海并光円上人、友金氏被参
二十四日　元老院出勤　衛生会江参ル
二十五日　〈日〉福沢氏園游会ニ参ル
二十六日　〈月〉元老院出勤、香川県設置之件
二十七日　元老院出勤
二十八日　元老院出勤、薬材ノ件第二読（ママ）　作題月漱梅湾図詩
二十九日　元老院出勤　三沢業広ニ金五円渡ス
三十日　高津柏樹ニ金拾円渡ス　元老院出勤［郡府県制第二読会］
十二月
一日　元老院江所労ニ付不参断ヲ出ス
二日　〈日〉高島嘉右衛門氏見訪［金三十円学校寄付金として被授］
「長崎引地町十九番戸　山田甚次郎」〔封筒からの切取か〕
三日　安生順四郎見訪
四日　元老院　相島氏御鶴サンノ里ビラキ
五日　元老院議事［鳥獣猟規則第二読会］
午後四時ヨリ堀江芳介君送別会、々者柳原、五条、藤井、佐□、永見、金井、森山、石井、綿貫、長谷部、調所、久我、安藤、大迫、大鳥、三浦、伊丹、河田、西、楠本、福羽、大給、鍋島、尾崎、上杉、岡内　会費三円
十四銭
六日　元老院江出勤
七日　揮毫
八日　元老院議事有之
九日　〈日〉
十日　元老院議事有之
十一日　元老院議事有之、市区改正条例検視会　今日（ママ）宮城拝見ニ参ル　原田一道様同伴ス
十二日　元老院議事有之
千葉県下総国香取郡今郡村　吉田六之助来見、神田区猿楽町四番地□丸幸方
十三日　元老院議事有之　津田仙被参、千百年□ヲ被贈　野村議官ノ娘、大山綱介ノ妻ニ西洋品行論ヲ贈ル
十四日　元老院ニ出勤［議事海陸軍刑法改定ノ件］　新井源一郎外二名来ル、信夫氏江紹介書ヲヤル
十五日　〈土〉　元老院ニ出勤
十六日　〈日〉
十七日　〈月〉藤堂侯、岡千仞、柳楢悦、伊藤圭介宅江参ル
十八日　所労断ヲ元老院ニ出ス
十九日　元老院出勤　重野、南摩、秋月、岡本、岡氏、島田諸氏ヲ招請ス
二十日　元老院出勤　藤堂老公、柳氏、伊藤圭介、三島、浅田、松平信正、内藤某ヲ招キ饗応ス
二十一日　元老院出勤
二十二日　元老院出勤　三浦議官方江参リ慊堂文集五冊ヲ返ス
二十三日　同人社同窓忘年会江参ル［八百松］、帰路藤堂様忘年会ニ寄ル
二十四日　元老院江出勤　柳氏ヨリ世界図ヲ見贈

二十五日　所労ニ付元老院江今日明日両日断リヲ出ス　黄村君見訪
二十六日　蕭穆［字敬学、安徽省安慶府桐城県人］、陳矩［字衡山、貴州人］、陶大均［字杏南、浙江省会稽人］三人見訪
〈支那公使館張氏ノ招キ五時ヨリ〉
『倉井深暢』〔名刺〕
『斯文学々員　永江奏』飯田町六丁目二十五番地〔名刺〕
『塩谷恒太郎』〔名刺〕
「法科大学々生　斉田熊二」〔名刺〕
『小笠原島茅島　二階堂民郎　芝区南佐久間町二丁目拾五番地』〔名刺〕
□内幸町一丁目六番地大槻吉直方『室原重福　J. Moorohara』〔名刺〕
二十七日　元老院是日有議事□登院、然病腹瀉、臨議場苦不便、故遣使告之、晩赴張子成招筵、蓋前日以来久成此約、且余為首賓則強病而往亦有不可已者、陪客則銭徳培、沈明遠、劉慶汾、徐少筌、荘　、陶大均　也
二十八日　家君之伝、慈母之伝、祖母千葉院（せい）之伝、不肖久欲具其材料因循不果、罪深於海重於山、然今暁夢見南摩羽峯托之以家君及慈母墓文、而其時心中或欲托三島、夢中恍惚固雖不確而忽見此事、則吾意有不可已者、急起書之以必当了此一段事決不容忘、況今二十八日　先考忌辰也、亦奇矣思至此
哉吾奇不
曩者因張君請
大人　揮灑擬掲楣間以為弊屋光
寵即時
見允恍如仰
盛範拝受之下銘感益深正直理当
趨謝因俗事繫身不果先呈寸楮以
達微忱伏惟
丙鑒〔別紙〕

十　木平　一　張子成
十　柳沢　一　大蔵将英
十　タツミ　三　河田烝
十　中原　三　東条
十　トミ次　一　八百吉
五　楊　三　納本
五　木村一歩　二　斉藤
□二　吾妻　二　菱沼
三□□　長谷川　二　相馬
二　渋谷　三　竹村仙三
三　千野　三　内田周平
五　鳥尾　三　守田宝丹
十　［鈴木貫道隆ノ方へ］木平　三　木平長兵衛
三　神津　三　［松茸ノウツリ］同人社ノ山形生徒
三　前田　三十　高橋金十郎
二十　岡田兎毛　二　三沢

〔鳥尾小弥太「保守中正派立憲党大意」印刷物〕
〔小石川区役所「所得金高届書遺漏ナカラシメンガ為メ左ノ掲示書一通及送付候也」印刷物〕

□余病後務頤養屏去一切故把□偏止□転閲□□此一流瞥耳、碧海翁有細評紙頁然読内藤先生

誦感其善知悉近代前時故事実不啻傾倒口而出之因是亦信知茲編之可憑信也、少年為学如旭日之升允哉、縦叙雖不病余何能言乎加一言乎感服之餘

千秋事業只在一息未断絶以前

〔創立者佐野尚「監獄協会規則」印刷物〕

〔Asiatic Society of Japan 会費請求書〕

Feb. 10th

Mr. Baker

Dear Sir

Tomorrow I ought to go to the imperial palace from half past nine o'clock,

Would you come from eight (8) & spend one hour.

I feel very much thankful.

But as Holy day, If you wish to rest, I shall not oblige

Yours very truly

「Received Oct. 9th 1888

$10 from K. Nakamura

for the Asiatic society

M. N. Wyckoff.」

「Mr. K. Nakamura

18 Edogawa Cho

Koisikawa

Tokyo.」

〔官製はがき、消印「二二・二・八」〕

〔表〕「小石川江戸川町十一番地　中村

Prof. M. Nakamura

11 Edogawacho Koishikawa

Tokyo」

〔裏〕「　Feb. 16th, 1888

Dear Mr. Nakamura,

Herewith please to receive Whitaker's Almanac for this year, for which you sent me $1 by the close of last year. Hoping that you & your family are in the enjoyment of good health, & with my kindest regards,

I remain, very truly yours,

G. F. Verbeck」

〔「盲人教育会規則」刷物〕

「　戊子一月十一日訪　敬宇先生見恵

愛敬余唱一巻感吟之余恭歩原韻

奉呈

愛敬詩成律叶宮、聯吟唱和仰余風、藻思深似九淵黒、翰墨光如雙燭紅、妙句精純蔵造化、微言温藉代天工、二家文気何人及、雲外高懸万丈虹

渡辺孚未定稿　」

□菴歯臨

林

注

（1）「任意吟。用三島中洲君韻」（『敬宇詩集』下巻）。「明治二十年日録」末尾収載。